2019年度

事業報告書

自 2019年 4月 1日 至 2020年 3月31日

1	法人事業報告	•	٠	•	•	•	•	•	р	1~5
2	法人本部・事務センター 事業報告								р	6~7
3	清風荘 事業報告								р	8~10
4	さわの風 事業報告								р	11~14
(5)	やまゆりの里 事業報告								р	15~20
6	じゅらく 事業報告			٠		٠			р	21~22
7	清湖園 事業報告			٠		٠			р	23~25
(8)	ほろん 事業報告								g	26~34

社会福祉法人 ゆたか会

2019年度 社会福祉法人ゆたか会 事業報告

自 2019年 4月 1日 至 2020年 3月31日

2019年度 理事会・評議員会 議事審議事項

(1) 理事会

(1)理事会				
開催年月日	定数 (理事6人) (監事2人) 出席者数	議事	決 議 (可否)	欠席者 氏 名
令和元年 6月3日	理事 6人 監事 2人	(第1回) 1. 平成30年度事業報告(案)の承認について (業務執行理事による職務執行状況報告) 2. 平成30年度決算報告(案)の承認について 3. 次期理事候補者(案)の承認について 4. 次期監事候補者(案)の承認について 5. 定時評議員会の招集及び議案概要の承認について (報告事項) ・清風荘デイサービス事業について	币 可可可可	なし
令和元年 6月27日	理事 6人 監事 2人	(第2回) 1. 理事長及び業務執行理事並びに常務理事の選定について 2. 旅費規程の変更(案)の承認について (協議事項) 資金運用・ソニー生命保険の取り扱いについて (報告事項) ・監事監査指摘事項の改善状況について	可可	なし
令和元年 11月25日	理事 6人 監事 1人	(第3回) 1. 就労継続支援B型並びに就労移行支援の事業変更(多機能化)について 2. 2019年度補正予算(案)の承認について 3. 各種規程の変更について (就業規則、給与規程、人事考課規程、旅費規程、経理規程、公印管理規程、決裁及び委任規程、運営規程) 4. 高島市被保護者就労支援事業等業務の受託について (報告事項) ・理事長並びに業務執行理事の職務執行状況について ・滋賀県社会福祉施設等指導監査の結果について ・養介護施設従事者等による高齢者虐待防止の取組み等に関する評価結果 ・部門別事業活動の状況等について ・その他	可可 可	監事 田中 和男
令和2年 3月27日	理事 6人 監事 2人	(第4回) 1. 2019年度補正予算(案)の承認について 2. 2020年度事業計画(案)の承認について 3. 2020年度予算(案)の承認について 4. 各種規程の変更について 「経理規程」「運営規程」 (報告事項) ・高島市財政援助団体等に対する監査の結果について ・部門別事業活動の状況等について ・その他	可可可可	なし

(2)評議員会

(4) 印 斑矢	. 4			
開催年月日	定数 (7人) 出席者数	議事	決 議 (可否)	欠席者 氏 名
令和元年 6月27日		(定時評議員会) 1. 平成30年度決算報告(案)の承認について 2. 理事・監事の選任について (報告事項) ・平成30年度事業報告について ・その他	可可	評議員 谷 仙一郎

2019年度 経営状況

(1)法人単位 資金収支・事業活動の状況

別紙 決算報告(要約報告版)参照

(2)事業運営の概況

·事業総数 32 事業

•職員総数 (3/31現在) 322 名 (採用者 38名 常勤22名、非常勤16名)

(前年比:95.5%) (退職者 40名 常勤14名、非常勤26名)

・利用者総数 (1日当りのサービス提供延人数(概算)) (年間延 推計)

高齢者 236 名(前年比:92.9%) 78,528 名(前年比:99.2%) 障害者 140 名(前年比:76.1%) 37,663 名(前年比:87.3%)

·事業活動収入計 1,482,801,657 円 (前年比:99.3%)

拠点別の事業種別、定員等は 別紙 組織図 参照

(3)借入金の状況 (単位:円)

	法人全体	本部	さわの風	清湖園	ほろん
当初借入金額	400,000,000	50,000,000	200,000,000	80,000,000	70,000,000
2019年度当初借入残高	246,145,000	0	156,832,000	27,930,000	61,383,000
2019年度元金償還額	15,882,000	0	9,048,000	3,990,000	2,844,000
2019年度借入金額	50,000,000	50,000,000			
2019年度末借入残高	280,263,000	50,000,000	147,784,000	23,940,000	58,539,000

ゆたか会 事業収入状況 2020年 3月31日現在

清風 荘	27年度事業収入	28年度事業収入	29年度事業収入	30年度事業収入	2019年度事業収入
施設+ショート	401,748,885	394,103,605	379,767,083	401,864,544	410,899,797
デイサービス	36,569,558	41,974,994	34,626,298	25,077,518	
合 計	438,318,443	436,078,599	414,393,381	426,942,062	410,899,797
当期活動収支差額	8,120,477	12,853,125	$\triangle 16,051,014$	$\triangle 7,788,391$	$\triangle 21,159,549$

さわの風	27年度事業収入	28年度事業収入	29年度事業収入	30年度事業収入	2019年度事業収入
施設+ショート	128,268,966	126,598,447	127,726,496	136,256,543	137,693,855
小規模多機能型居宅介護	32,853,831	36,193,856	34,426,065	37,782,871	34,155,839
合 計	161,122,797	162,792,303	162,152,561	174,039,414	171,849,694
当期活動収支差額	$\triangle 10,685,602$	△22,130,803	$\triangle 24,867,912$	$\triangle 20,106,182$	$\triangle 26,620,695$
と まかける 田	27年 由事 学 旧 7	20年中主学师7	20年中事業1月7	20年中主学师 7	2010年度事業117.7

やまゆりの里	27年度事業収入	28年度事業収入	29年度事業収入	30年度事業収入	2019年度事業収入
施設+ショート	228,044,834	228,191,117	242,262,347	246,831,912	238,411,541
デイサービス	31,659,180	30,661,736	29,946,422	27,348,290	24,747,747
ホームヘルプ	15,342,898	14,403,782	15,776,019		
居宅介護支援	5,375,831	5,401,180	5,837,490	5,607,730	6,115,960
습 計	280,422,743	278,657,815	293,822,278	279,787,932	269,275,248
当期活動収支差額	2,316,877	112,948	2,334,516	2,715,920	$\triangle 10,326,925$

ケアハウスじゅらく	27年度事業収入	28年度事業収入	29年度事業収入	30年度事業収入	2019年度事業収入
ケアハウス	31,925,276	32,664,398	30,424,792	31,820,563	34,548,541
当期活動収支差額	1,975,416	1,217,342	$\triangle 2,379,432$	△97,037	3,233,147

清湖園	27年度事業収入	28年度事業収入	29年度事業収入	30年度事業収入	2019年度事業収入
施設+ショート+日中一時	147,213,141	148,371,743	157,999,631	148,538,703	145,876,567
生活介護	256,378,518	252,247,726	242,716,722	251,200,360	252,241,319
合 計	403,591,659	400,619,469	400,716,353	399,739,063	398,117,886
当期活動収支差額	49,255,301	15,296,720	74,026,830	65,326,164	43,733,005

在宅福祉サービスほろん	27年度事業収入	28年度事業収入	29年度事業収入	30年度事業収入	2019年度事業収入
就労継続支援B型	34,430,698	36,842,415	38,126,887	38,951,637	41,320,306
就労移行支援·定着支援	18,480,946	17,468,610	26,507,736	20,999,030	15,862,327
ホームヘルプ	36,093,180	39,307,930	45,121,926	47,914,079	50,356,007
居宅介護支援	3,678,482	4,126,680	6,757,780	7,676,410	7,240,510
その他事業	29,309,089	31,167,249	31,325,868	32,072,742	32,931,462
合 計	121,992,395	128,912,884	147,840,197	147,613,898	147,710,612
当期活動収支差額	46,412,941	$\triangle 4,674,871$	5,573,105	$\triangle 5,478,681$	$\triangle 10,631,856$

雇用安定等事業	27年度事業収入	28年度事業収入	29年度事業収入	30年度事業収入	2019年度事業収入
雇用安定等事業	9,960,212	13,437,099	17,652,694	17,169,320	17,713,372
当期活動収支差額	68	9	3	4	2

総事業収入計(本部拠点除く)	1,447,333,525	1,453,162,567	1,467,002,256	1,477,112,252	1,450,115,150
当期活動収支差額(本部拠点含む)	74,532,041	13,535,812	45,096,111	42,808,647	△3,127,170

待機者の状況

	清原	虱荘			さわ	の風			やまゆ	りの里			清洁	调園	
市町名	男	女	計	市町名	男	女	計	市町名	男	女	計	市町名	男	女	計
大 津 市	4	7	11					大 津 市	3	7	10	大 津 市	14	4	18
草津市		1	1					草津市		1	1	草津市	4		4
守山市		1	1					守山市			0	守山市	3	1	4
栗東市			0					栗東市			0	栗東市	1	1	2
野洲 市		1	1					野 洲 市			0	野洲 市	2		2
甲賀市			0					甲賀市			0	甲賀市	1	1	2
湖南市			0					湖南市			0	湖南市	6	1	7
東近江市			0					東近江市			0	東近江市	3	1	4
近江八幡			0					近江八幡			0	近江八幡	3	1	4
安 土 町			0					安 土 町			0	安 土 町			0
日 野 町			0					日野町			0	日野町	2		2
竜 王 町			0					竜 王 町			0	竜 王 町			0
彦 根 市	1		1					彦根市	1		1	彦 根 市	4	1	5
豊 郷 町			0					豊郷町			0	豊 郷 町			0
甲良町			0					甲良町			0	甲良町	1		1
多賀町			0					多賀町			0	多賀町			0
愛 荘 町			0					愛 荘 町			0	愛 荘 町	1		1
米 原 市			0					米 原 市			0	米 原 市	4		4
長 浜 市	10	6	16					長 浜 市		1	1	長 浜 市	7	7	14
マキノ町	5	7	12	マキノ町	5	5	10	マキノ町	2	4	6	マキノ町	1		1
今 津 町	9	38	47	今 津 町	5	9	14	今津 町	6	19	25	今 津 町			0
朽 木	1	1	2	朽 木			0	朽 木	5	6	11	朽 木			0
安曇川町	14	27	41	安曇川町	4	4	8	安曇川町	13	35	48	安曇川町	1	2	3
高 島 町	5	10	15	高島町	1	1	2	高島町	8	14	22	高島町		2	2
新旭町	7	19	26	新旭町	2	2	4	新旭町	5	14	19	新旭町			0
他府県	8	14	22	他府県			0	他府県	3	6	9	他府県		1	1
合 計	64	132	196	合 計	17	21	38	合 計	46	107	153	合 計	58	23	81

・2019年度決算数値において、

社会福祉充実残額(余裕財産)は発生しない。(下記のとおり)

①活用可能な財産 =

856,383,313 円

項目	金額
資産(a)	2,911,859,328
負債(b)	583,177,958
基本金(c)	335,269,573
国庫補助金等特別積立金(d)	1,137,028,484
合計(a-b-c-d)	856,383,313

②社会福祉法に基づく事業に活用している不動産額 =

186,436,008 円

項目	金額
財産目録における貸借対照表価額(a)	1,889,928,075
対応負債合計(b)	280,376,956
対応基本金(c)	286,086,627
国庫補助金等特別積立金(d)	1,137,028,484
合計(a-b-c-d)	186,436,008

③計算の特例(年間事業活動支出) =

1,414,508,983 円

項目	金額
年間事業活動支出	1,414,508,983

④控除対象財産計(2+3) =

1,600,944,991 円

⑤社会福祉充実残額(余裕財産)(①−④) △ 744,560,000 円

※内訳

②社会福祉法に基づく事業に活用している不動産額

(b) 対応負債合計	280,376,956 円
1年以内返済予定設備資金借入金	15,882,000 円
1年以内返済予定リース債務	9,325,968 円
設備資金借入金	214,381,000 円
リース債務	40,787,988 円
(c)対応基本金	286,086,627 円
第1号基本金	283,086,627 円
第2号基本金	3,000,000 円

職務執行状況報告書 2019年度(下半期)

定款第17条第3項の規定に基づき、理事長及び業務執行理事の職務執行状況について、下記のとおり報告する。

1、理事長

適宜、事務局から報告を受け、理事長専決規程及びその他関連規程に基づき、次の職務を行った。

2019年		
10月	10月1日	・任期満了に伴い第三者委員を委嘱(任期 令和元年10月1日~令和3年9月30日)
	10月27日	・就労継続支援B型事業廃止届出書を滋賀県へ提出
11月	11月11日	・介護保険法及び障害者総合支援法に基づく変更届出を滋賀県及び高島市へ提出
	11月15日	・指定介護予防支援及び介護予防ケアマネジメント業務委託契約を高島市と締結
	11月25日	・第3回理事会を招集(就労支援事業の多機能化、補正予算、各種規程の変更、被保護者就労支援業務の受託)
12月	12月12日	・令和2年度高島市被保険者就労支援事業等業務委託料見積書を高島市へ提出
	12月16日	・高島市財政援助団体等に対する監査の事前提出書類を高島市へ提出
2020年		
1月	1月10日	・高島市による市財政援助団体等に対する監査の事前事務監査に出席
	1月21日	・清風荘特養・ショートステイ事業指定更新申請書を滋賀県へ提出
	1月21日	・心理的な負担の程度を把握するための検査結果等報告書(ストレスチェック)を大津労働基準監督署長へ提出
	1月21日	・介護ベット法人一括購入に係わる売買契約書を株式会社ヤサカと締結
	1月21日	・2020年度介護員養成研修事業年間実施計画届出書を滋賀県へ提出
	1月30日	・高島市による市財政援助団体等に対する監査の本監査に出席
2月	2月13日	・令和2年度障害者社会参加促進事業・手話奉仕員・音訳奉仕員養成事業業務計画書・予算書を高島市へ提出
	2月25日	・介護員養成研修事業指定申請書を滋賀県へ提出
	2月27日	・こころいちばんホームヘルプサービス事業指定更新申請書を滋賀県へ提出
3月	3月2日	・清湖園指定更新申請書を滋賀県へ提出
	3月11日	・要望等解決委員会、リスクマネジメント委員会合同会議、研修会を開催
	3月16日	・こころいちばん居宅介護支援センター指定更新申請書を高島市へ提出
	3月17日	・こころいちばんホームヘルプサービス介護予防・生活支援サービス事業者指定更新申請書を高島市へ提出
	3月26日	・令和2年度高島市被保護者就労支援事業等業務委託に係る入札見積書を高島市に提出
	3月27日	・第4回理事会を招集(2019年度補正予算、2020年度事業計画、予算)
	3月31日	・障害者就業生活支援センター(雇用安定事業)実施計画書を滋賀県労働局長へ提出

2、常務理事

適宜、事務局から報告を受け、職務分掌規程及びその他関連規程に基づき、理事長を補佐するとともに次の職務を行った。

尚、この期間決裁及び委任規程に基づく専決行為は行っていない。

1-1/	同、この場面に残失し女性が住に塞って寺が自然は自っています。						
通年		・運営委員会等の重要会議に出席					
2019年	11月25日	・第3回理事会への出席					
	12月16日	・滋賀県による介護サービス事業所等に対する集団指導に出席					
2020年	1月10日	・高島市による市財政援助団体等に対する監査の事前事務監査に出席					
	1月30日	・高島市による市財政援助団体等に対する監査の本監査に出席					
	2月14日	・介護サービス事業者協議会主催の福祉避難所訓練に参加					
	3月11日	・要望等解決委員会、リスクマネジメント委員会合同会議、研修会を開催					
	3月27日	・第4回理事会への出席					

令和2年 3月31日

(報告者)

社会福祉法人 ゆたか会 理事長 杉橋 研一 常務理事 山川 恵子

		少云事業報告 <u>施設名 法人本部</u>	・ 広人事務セノター
	取組事項	実 施	状 況
		【運営委員会・GM会議】(主な協議事項)	9月 各拠点の懸案事項について
		4 月 賞与支給基準の見直し、処遇改善計画につい	10月 各種規程の変更について、次期第三者委員に
		て、SNS(フェイスブック・インスタグラム)	選出について
		の活用について、ホームページの改修	11 月 次年度人事計画について、高島市自立相談支
		5月 理事会・評議員会の議案について、小規模法人	援機関就労支援の受託について
		のネットワーク化による協働推進事業	12 月 ほろん就労支援事業の体制、外国人材の確保
	1.法人運営関係		
	運営委員会等	6月 夏期賞与の支給、経営協WEB診断の実施、職	について
	建占女貝云守	員全体会議の実施、外国人技能実習生の受入	1月 定年退職者の継続雇用条件について、人事異
		れについて	動について
		7月 湖西ゆめ企画の過大請求に伴う対応、有給休	
		暇の計画付与について	み換え、予算理事会の開催について、
		8月 特定処遇改善、補正予算理事会の開催につい	3月 補正予算・新年度予算について、次年度事業
		て、ほろん拠点事業の運営体制について	計画について
	2.要望等解決委	・リスクマネジメント委員会と合同で開催。25名	・研修会: 昨年に続き古山顧問弁護士より「施設の虐
法		•受付総件数 17 件 在宅相談、施設入所、短期入所	待事例を通し考えること」と題して講演。
一运	員会	の順で多く、職員の対応に関してが17件の内14	
	(委員長:鎌田智恵子)		文川下数の少なとで、プヘノ安東云との口川州底の
1 .		件。結果、未解決1件、継続8件、解決8件。	是非等意見があった。第三者委員2名参加。
丨人	0 117 77 7 7 7	•委員会を要望等解決委員会と合同で開催。講師 古	- 各拠点の委員会開催回数
	3.リスクマネジ	山顧問弁護士にて研修会を行った。	清風荘 12 回、清湖園 12 回、やまゆりの里 12 回
	メント委員会		
本	(委員長:吉田和浩)	(出席者 役員、外部委員、拠点担当者 19名)	(研修会1回)、さわの風12回(ヒヤリハット毎月)
	(女兄及・口田州)の	・各拠点内での委員会活動を中心に行った。	主な事故等は運営委員会等で報告と共有を行った
		・法人職員の資質向上を目的とし研修の在り方、実	: ④ 現任(新任)研修2日間コース(9名)
部			
1		施内容・方法を委員会で協議検討した。	⑤ メンター研修 1 日10名(新人職員のサポート
		① アシミレーション(組織内のコミュニケーショ	役としての必要スキルの摺合せ)
	4.研修委員会	ンを活性化しチームカ向上を目的として)4名	⑥ 中国人技能実習生向け研修 1 日コース
	(委員長:伴英治)	の役職異動者と21名のメンバーの参加	7 各施設内(虐待事例、危険予知、感染症、人権)
	(女貝文・十失/ロ)		
		② 介護職員初任者研修の開催(外部受講者5名・	研修を実施した。
		内部受講者3名)期間:6/5~11/27(130H)	: ⑧ 介護初任者研修事業継続指定滋賀県指令医福第
		③ 介護職員実務者研修の受講4名	495号(平成31年3月29日指定)
		• 産業医、委員長、各施設の衛生管理者、各施設の職	10月 衛生研修【感染症について】参加30名
		場代表 合計 12名の委員で構成。毎月開催。	11月 さわの風巡視、ストレスチェック集団分析結
		4月 年度計画、メンタルヘルス、働き方改革	果、有給休暇取得状況
		5月 健康診断、やまゆりの里巡視	12月 医療研修【生活習慣病発生予防について】参
	5.衛生委員会		
	(委員長:水野賢祐)	6月 衛生研修【食中毒予防、ESBL について】参加	加22名・インフルエンザ予防接種
	(女兄父・小野貝川)	者32名	1月 有給休暇の取得促進について
		7月 清風荘巡視、健康診断集計結果	2月 新型コロナウイルスへの対応について
		8月 安全研修【腰痛について】参加者19名	3月 健康診断婦人科健診について
			13月 健康診断婦人科健診について
		9月 清湖園巡視、ストレスチェック	1
		• 規程の制定及び改廃(第1回理事会: 就業規則の改	炊出訓練、避難訓練、救命講習(18名)
		定、第2回理事会:経理規程および給与規程の改	福祉避難所開設訓練
	1 Water	定、第3回理事会:就業規則および給与規程の改	• 各種設備法定点検、日常的修繕作業、除雪作業等
	1.総務係	定)	・ 次年度以降の大規模設備更新の検討
		• I T資産の管理 (PC158台、サーバ 12 台及びネ	・労働衛生関係:ストレスチェック、雇入れ及び定期
		- ットワーク機器、ホームページ更新等)	健康診断の実施、インフルエンザ予防接種の実施
			: 妊状の質の大心、「ノフルエンソア的技性の失心
1		・災害対策 地域合同の防災倉庫設置及び災害想定	1
法		・採用退職:(採用:常勤 20 名・非常勤 16 名、退	・ハローワーク求人について法人並びに各拠点の運
1		職: 常勤 14 名•非常勤 26 名)	営状況に則した見直しを行いインターネット求人
人			
	0 1 = 15	・求人及び広報活動に外部専門員を委託し多面的な	への登録を実施
事	2.人事係	人材確保に取り組んだ	・市及び県内の就職説明会へ延5回参加するととも
		・フェイスブック、インスタグラムを活用し広く法人	に介護サービス事業者協議会主催の採用力向上セ
務		及び事業所の活動内容をアップし法人内の魅力を	ミナーに参加し、県内の大学校への他法人と福祉事
セ		発信し求職者へのアプローチを仕掛けた	業者のPR活動で法人紹介を行った
_		- 情報の公開	・本部職員の経費の在り方を検討。「共通管理費」科
レン		法人の計算書類等を法人及び関係機関を利用し	目を設け拠点必要資金としての認識を示した
_		公開 各団体の調査等にも積極的に協力を行う	・市の財政援助団体への監査を受検し補助金に関す
タ	O 42111111111111111111111111111111111111		
_	3.経理係	・当年度の外国人技能実習生を受け入れにあたり、新	る事業の適正な処理について確認し、担当課と各種
1		たに「技能実習生関連費用」科目を設け関連する費	要綱と執行の乖離について折衝を行った
'		用について明らかにするとともに適用する助成金	・修繕積立金として 清湖園 10,000 千円を積立
		かにういくのうかにすることもに過れずる助機型	(累計 90,280 千円)
		・食の連携(ペースト食の導入と看取り期の食事ケア	・設備管理と衛生管理の徹底(やまゆりの里作業工程
		の継続実施)	別衛生管理の標準作業書を作成。本部厨房排水溝を
1		・サービスの質の向上(季節感のある行事食や面前調	点検、洗浄、改修工事施工。衛生環境を改善。)
	4.フードサービス係		
		理の多職種共同で行える手順書を作成)	・災害対策 (備蓄食料の継続的な在庫管理、献立使用
		・さわの風の給食業務の効率化(業務の見直しと標準	の計画と実施。食中毒(感染症)事故発生時の対応
		化)	マニュアルに着手、他施設と会合実施)
	i	<u> </u>	

2019年度 法人事務センターフードサービス係 事業報告

1. 食の連携に向けて

食事形態整備、ペースト食の導入。

利用者の介護度が高く、看取り期の方も増え、従来の常食やソフト食では適さない場合が増えてきたため、それに適した食事を提供するために、まずは清風荘からペースト食の導入を図ることができた。また、看取り期の食事についても前年度から継続して取り組んでいる。

さわの風ではブレンダー食が導入された。多職種で使える食事形態表は現在作成中である。

2. サービスの質の向上

行事食や面前調理の手順書の作成。

施設に合った方法で行事食や面前調理を行い、季節感や食べる楽しみを提供。

各部署職員不足であっても、利用者に喜んでいただけるようにメニューや方法を検討し、 多職種の協力のもと行える手順書を作成することができた。

ソフト食メニューの組み合わせや内容の見直し

真空調理で仕込んでいた野菜のピューレを市販品に変えることによって、手間や労力を省 き栄養価が改善され、調理作業や献立作成の時間短縮ができ、調理員や栄養士が人員不足 であっても安定した献立を提供することができた。

3. 給食費の適正管理

さわの風の給食業務の効率化

調理作業場所をパントリーに集約することを検討したが、設備の配置換え等にかかる経費に 見合った効果が得られそうにないため見送った。その過程で、担当者同士が話し合うこと で細かなところから業務省略や改善できるところが見え、自己流のやり方ではなくコツの 共有や標準化の必要性がわかり、継続して会合をもつことにした。

4. 設備管理と衛生管理の徹底

やまゆりの里作業工程別衛生管理の標準作業手順書の作成。

本部の衛生管理マニュアルをもとに、やまゆりの里に合った手順書を作成した。土台ができたので、今後は各施設、食品衛生法改正による一般衛生管理と重要管理のための衛生管理計画の作成に向けて取り組んでいく。

厨房内の経年劣化の改修と衛生管理

害虫発生、異臭の原因を追究。排水管の点検、洗浄。排水溝や野菜下処理室の防水、改修 工事の施工。衛生環境を改善した。

5. 災害対策と地域貢献

備蓄食料の継続的な在庫管理と献立使用の計画と実施。

食中毒事故発生時のマニュアルに着手。他施設との会合実施。

災害時だけでなく、感染症発生時の対応について、備蓄量を含め整備していく。

$\overline{}$			約6名•非常勤23名 合計88名(常勤換算74.5名)
	取組事項	実力	拖 状 況
	1. 介護給付費	・特養一稼働率 91.7%(前年度 91.2%+0.5P) 理由-①入所者の高齢化と重度化に伴い入院や看取りケアの増加(27名)で退所者が39名あり(前年度22名)(平均介護度3.9)②新規入所者は42名あったが退所者も多くスムーズな入所ができず、空床数(外泊・入院含む)が2735と多くなった	・短期入所一稼働率 74.8% (前年度 78.4%-3.6P) 理由①短期入所利用者の入院や入所でのキャンセルと合わせ 1月~3 月にかけ新型コロナウイルス感染拡大防止のため発熱 (微熱) の方の利用お断りやキャンセルなどで稼働率が落ちた
	2. サービスの質 職員の資質向上	 ・法人研修―現任研修短期コース4名 ・施設内研修―人権研修・虐待防止研修、認知症研修、感染症対策研修、褥瘡対策実技指導研修等を開催 ・高島市虐待防止研修会で事例発表 ・社会福祉学会で福祉避難所開設訓練実施の事例発表 ・看取り介護研修―外部講師を招聘し実施59名参加 ・介護職員初任者研修1名・実務者研修通学講習1名(介護福祉士資格取得1名) 	・中国から技能実習生4名を7月から受入れ ・外部研修-管理者17回、相談員16回、介護支援専門員14回、介護職員16回、看護師2回、事務員2回、栄養±3回。 ・職場の活性化・業務の効率化を図るため目標管理活動に取組んだ。 ・各種委員会活動による支援の強化(リスクマネジメント、身体拘束、虐待防止、排泄・褥瘡対策、感染症対策、広報、サービス向上)
	3. 要望等解決	・入所者から入浴についてもう少ししっかり洗って欲しい、ゆっくりと入浴がしたいと要望あり、対応する職員への聞き取りなど行い対応方法を周知した	・地域から職員通勤時の車両の走行(速度・騒音)について 苦情あり、対象職員への注意指導を行う。施設周辺の走行ル ールについて全職員への再周知を行った
施	4. 地域貢献等の促進	・市ケ崎区、清湖園、今津病院と共催でふれあい交流 会を開催 ・フリースペースを「命の第九」事務局として貸与	・子供の居場所づくりフリースペース「ゆったり」を毎水曜日に実施(中2小2、2名)3月から中止
設置	5. 防災訓練	・滋賀県小規模法人ネットワーク化協働推進事業(高島市介護サービス事業者協議会)のモデル施設として福祉避難所開設訓練(高島市と協働で実施)と事業所BCP手引書作成に着手 ・年間防災訓練計画に基づき、避難訓練4回(内夜間	想定2回、日中1回は消防署立会)消火訓練2回(消火器5名、消火栓2名)夜間通報訓練1回、消防設備点検2回、BCP 防災訓練2回(1回は地域合同炊出し訓練・普通救命講習1名
	6. 環境美化 保健衛生.	・感染症対策として除菌洗浄水による施設内殺菌消毒 加湿器設置 ・新型コロナウイルス対策-①職員の出勤前、出退勤時 の検温、マスク着用 ②面会制限と外出自粛	③業者の生活階への立入禁止④定期的換気の放送等を実施・職員の健康診断実施・3S活動による整理整頓の継続・インフルエンザ予防接種(83名)を実施したが、職員2名が罹患
	7. 在宅支援等	・短期入所生活介護では、地域の担当ケアマネジャー との連携を密にし、在宅ケアプランと短期入所生活介 護計画の整合性を取りつつ、利用者援助を行った	・利用者の方からの要望に応え日中の時間を少しでも充実していただけるように、レクレーション等の時間を提供。
	8. 人材育成	・滋賀県小規模法人ネットワーク化協働推進事業の一環で①採用力向上セミナーにおいてプレゼンテーション技術を学び、実践する(就職説明会)、②高島市事業所で働く職員紹介のパンフレットに掲載	・インターンシップ-週1回 龍谷大学2月から中止 ・法人内採用育成研究会に係長、副主任参加(月1回) ・個人面接実施 ・規程変更については速やかに職員に説明と提示
	9 .人権活動の推進	・外部機関開催の人権に関する研修に参加	・人権研修(虐待防止研修含む)20 回延べ 66 名参加
	10.実習の受入れ	・華頂福祉専門学校 2 名 28 日間実習(日本人、フィリピン人)・堅田看護専門学校-6 名 3 日間の実習	・今津中学校体験学習-4名5日間 ・教職員介護等体験実習-1名5日間
	11.施設整備· 備品等更新	・天井走行リフト 2 台購入、リモコン修繕(1,833 千円)・ベッド購入5台(1,135 千円)・車椅子 1 台(128 千円)・介護ロボット PALRO(851 千円) ・自動対外式除細動器 AED 購入(269 千円) ・コールドテーブル 2 台(810 千円)	 介護ソフト RELY サーバー(719 千円) ・介護ソフト RELY バージョンアップ(1,270 千円) ・消防設備修理等(853 千円)・厨房自動ドア(356 千円) ・1階会議室トイレ改修工事(1,430 千円) ・LED照明器具取替工事(2,756 千円)
利	1 .生活支援·個別支援	・少しでも利用者個人に目が向けられるように職員の 意識変化を求める為、ケアプランの評価表及びアセス メントシートの記入やカンファレンスの参加を担当 職員に位置付けた。 ・年々増える施設での看取りケアに関して、ワーキン ググループを立ち上げ全職員を対象に看取り研修を行い看取り指針を策定した。その後も継続して施設内で グループワーク中心の看取り研修を行った。 ・看取り後には、ご家族や職員へアンケートにて聞き 取りを行い振り返りをしたが、デスカンファレンスは	1回しか開催出来なかった。 ・ケアカンファレンスの開催 231 件(内入所前カンファレンス 41 件、家族参加(後見人含む)64 件、本人参加2件、看取り21 件、振り返り1件) ・褥瘡に関しては、毎月実施している委員会と連携し、早期発見・早期対応に努めた ・作業療法士による週1回集団リハビリの実施。延べ980名機能評価と個別リハビリ(15名)を実施し、機能維持に努めた ・今津病院言語聴覚士による食事姿勢の評価と指導 26名
用者サー	2. 健康管理	・今津病院嘱託医との連携の下、急変や体調不良の早期発見に心がけ、健康管理、疾病治療において適切な医療サービスを受けられるように努めた・施設での看取りを希望された利用者27名の終末期ケアを行った・肺炎球菌ワクチン予防接種-5名〈希望者〉	・定期健康診断-5~6月に73名、入所時健康診断40名・インフルエンザ予防接種-72名に実施し、職員2名が罹患したが感染対策に努め、感染拡大を防ぐことが出来た・歯科衛生士による口腔ケアを週2回実施し、口腔機能の向上に取り組んだ・リラクゼーショントレーナーによる拘縮、浮腫の軽減を週1回実施(20名)
ビ ス	3. 食の提供	・ペースト食の導入と看取り期の食事ケア(看取り期の方 や嚥下機能の低下等によって従来の食事形態に適さない 場合が増えてきたためペースト食の導入を目標管理で取 り組み、達成することができた。)	
	4. 主な行事実施状況	・利用者の体調に合せ、花見、紅葉等の個別外出行事 をはじめ、ドライブを実施 ・年末餅つきの実施	・各グループでの誕生会や季節行事、リクレーションの 実施
	5. ボランティア	広瀬仏教婦人会(仏壇清掃1回)高島仏教婦人会(作業奉仕1回)高島仏教会(法話会第3水曜日)今津民生委員(車椅子清掃1回)	・かざぐるま、コスモス(喫茶さざなみ 13 回延べ 53 名) ・フラワーアレンジメント教室(年 4 回希望者のみ参加) ・ビハーラ高島(傾聴ボランティア2回) ・オカリナ演奏(12 月から中止)等

特別養護老人ホーム 清風荘 (指定介護老人福祉施設 滋賀県第2572200059号)

3. 入所者住所地

津

南 東

原

津

根

浜

ılı

近江八幡市

マキノ町

津

安曇川町

島

旭

府

単位(円)

|要 介 護 1

要 介 護 2

要介護3

要 介 護 4

要介護5

*1単位10円で計算

1日あたり

今

洲

市町名

区分

市

市

市

市 市

市

市

市

市

市

町

町

町

県

n

多床室利用料

559

627

697

765

832

サービス料金

R2.3.31現在

◎開設年月日 昭和49年3月8日 ◎利用定員(長期入所)90名 ◎ショートステイ(短期入所)20名 ◎協力医療等機関 今津病院・高島市民病院・たつなみ歯科

旧措置者

入所者数

H12.4月~

b

6

38 2

14

9

16

個室

559

627

697

765

832 上記の単位(円)に下記の各種加算がかかります。

4 唯马和罗斯

1.職員配置数						
区分 職種	現員	配置基準	常勤 換算	備考		
施 設 長	1	1	1			
事 務 員	1		1			
生活相談員	3	1.1	1.6			
介護支援専門員	3	1	2.3	(兼務1)		
栄 養 土 介 護 職 員	1	1	1			
介 護 職 員	66	36.7	54.7	(兼務2)		
看 護 職 員	7	3	6.6			
機能訓練指導員	1	1	0.1	(兼務1))		
調理員	3		3			
医 師	1	1	0.1	嘱託医		
介 助 員	1		1			
営 繕 員 そ の 他	1		1			
そ の 他	3		1.1	リデクレーション・歯科衛生士・食洗		
計	92	45.8	74.5			
入所者:介護看	護職員	1:3	1: 1.8			

2 要介護度別入所者数

۷.	女儿	<u>哎/又/</u>	<u> </u>	<u>加 </u>		
		区	分	入所	者 数	
				男性	女性	計
要	介	護	1	0	0	0
要	介	護	2	0	4	4
要	介	護	3	7	16	23
要	介	護	4	3	33	36
要	介	護	5	2	23	25
合			計	12	76	88

※施設要介護度平均 3.9

(31年度末 平均要介護度3.9)

☆加算各種☆

加算は2.4.1~ ☆料金(単位)改定 ☆現行どおり

※身体拘束廃止取組

※看取り介護体制

有

※栄養ケアマネジメント体制 1日 14単位(円)加算

☆個別に加算

※療養食加算

※看取り加算 死亡日1280単位(円) 前日及び前々日 一日680単位(円) 死亡日以前4日以上30日以下 一日144単位(円)

1食ごと 6単位(円)加算

4 年龄•性别 入所者数

<u> </u>	八川省玖		
	男	女	計
55~64歳	0	0	0
65~69歳	2	0	2
70~74歳	0	5	5
75~79歳	1	2	3
80~84歳	3	6	9
85~89歳	3	22	25
90~94歳	2	28	30
95~99歳	1	10	11
100歳~	0	3	3
合 計	12	76	88
平均年齢	31年	30年	29年
施設	88.6歳	89.5歳	89.0歳
男性	83.6歳	87.0歳	85.3歳
女性	89.9歳	89.9歳	89.7歳
最小年齢	67歳		
最高年齢	102歳		
		-	

5.入所期間別状況

		ロケ月不河	一十不河	2 中不	
	男性	3	2	1	
	女性	18	12	11	
食費		3年未満	4年未満	5年未満	
	男性	2	0	0	
	女性	9	5	4	
		5年以上	平均入所期間		
1,430	男性	4	男性	3年6ヵ月	
	女性	17	女性	2年5ヵ月	
			平均	2年5ヵ月	
			最長	11年11ヵ月	

6ヶ日未満 | 1年未満 | 2年未満

最短

0ヵ月

待機者数

(R2.3.31 現在)

11

1

1

16

1

1

143

22 196

個室

1.171

計

c(a+b)

0

0

0

0

6

38

2

14

9

16

88

多床室

855

利用者負担(1割)

居住費

※日常生活継続支援加算 1日 36単位(円)加算 (※サービス体制強化加算 1日 6単位(円)加算)

※看護体制加算 1日 12単位(円)加算(I·Ⅱ 复定)

※夜勤職員配置加算 1日 13単位(円)加算

※(新設)介護職員処遇改善加算 一月の総単価×8.3%

※(新設)介護職員特定処遇改善加算 一月の総単価×2.7%

- 9 -

2019年度 清風荘(施設·短期) 稼働率

介護老人福祉施設	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	備考
要介護1	30	31	30	31	30	13	31	5	0	0	0	0	201	定員 90名
要介護2	90	82	80	93	93	90	93	90	93	124	116	124	1168	
要介護3	611	691	690	711	682	595	606	652	696	651	617	682	7884	入所 42名
要介護4	671	720	694	804	835	757	785	830	923	991	908	1026	9944	退所 39名
要介護5	1007	1022	962	967	953	896	930	904	826	894	799	848	11008	待機者202名
合計延べ利用者数	2409	2546	2456	2606	2593	2351	2445	2481	2538	2660	2440	2680	30205	
平成31年度稼働率(%)	89.2%	91.3%	91.0%	93.4%	92.9%	87.1%	87.6%	91.9%	91.0%	95.3%	93.5%	96.1%	91.7%	
平成30年度稼働率(%)	88.9%	90.7%	91.6%	91.5%	90.8%	89.1%	90.9%	92.5%	92.4%	92.7%	91.5%	91.5%	91.2%	
平成29年度稼働率(%)	93.9%	92.9%	93.0%	88.7%	88.3%	87.9%	90.1%	90.5%	91.1%	88.5%	92.2%	89.7%	90.6%	
短期入所生活介護	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	備考
要支援1	0	0	3	2	3	3	3	0	3	0	0	0	17	定員 20名
要支援2	0	0	0	0	0	0	4	0	0	0	3	0	7	
要介護1	85	117	124	89	100	99	94	79	73	67	69	49	1045	
要介護2	138	119	131	142	134	129	124	123	83	95	77	82	1377	
要介護3	138	150	94	92	147	150	155	121	138	113	110	117	1525	
要介護4	91	88	93	59	69	76	65	83	88	99	104	70	985	
要介護5	27	34	46	31	18	50	66	68	76	54	40	4	514	
合計延べ利用者数	479	508	491	415	471	507	511	474	461	428	403	322	5470	
平成31年度稼働率(%)	79.8%	81.9%	81.8%	66.9%	76.0%	84.5%	82.4%	79.0%	74.4%	69.0%	69.5%	51.9%	74.8%	
平成30年度稼働率(%)	70.0%	77.1%	79.2%	84.0%	80.6%	84.8%	78.9%	84.7%	82.3%	77.9%	63.2%	77.7%	78.4%	
平成29年度稼働率(%)	68.8%	67.3%	75.5%	77.4%	72.7%	67.0%	60.6%	64.2%	59.7%	51.0%	71.1%	74.7%	67.5%	

施設名
さわの風

【定員】入所 29 名 · 短期入所 1 名 人)___

【拠点職員】常勤 22 人・非常勤 15 人 合計 37 人(常勤換算 29.3

	人)		
	取組事項	実施、状	、
	1.介護保険	(稼働率年間延日数) 特養 9981 日平均 94.0%(前 94.9%) ・入院総日数は 575 日、空白日数 58 日、実人数 14 人平均要介護度は 3.8 と重度化の傾向は変わらない。	(入所判定会) 毎月1回開催公正且つ適正に行った。特養への 入所基準が変わり、要介護 2 の方 2 名を特例申し込み者とし て、市に報告している。
	2. サービスの質 職員の資質 向上	・(サービス向上委員会) 質の向上、各部署の連携と情報共有、業務改善を行なう目的に開催。参加者:管理者・ケアマネ・相談員・介護副主任・栄養士・調理師・看護師・事務員計12回開催)・(リーダー会議) ユニット間の情報共有、連携とリーダー同士の意見交換を目的に下半期から開始した。	・(月例会) 13:30~開催。この機会を活用し、内部研修としても実施できた。研修内容:人権・虐待・事故防止・実務者研修通学講習1名(介護福祉士資格取得1名)・社会福祉学会で事例発表。「技能実生を受け入れて」
	3.要望等解決	守秘義務違反に関しての要望から継続し周知徹底を行った。	ご家族の面会時に積極的にコミュニケーションを図るようにした。
施設	4.地域交流促進	 ・地域の一員として区内行事に積極的に参加。また施設行事(納涼祭・餅つき)にも地域の方々を招くなど交流を深めることができまた、区長に協力いただき、区内にチラシを配布させていただき、参加を呼び掛けた。 ・沢区夏祭行事開催に向けて実行委員として参加。(2回)・マキノ西こども園児来所。園児とのふれあい交流の場を設けた。(歌、得意なことを披露) 	・新旭養護学校に「企業の知見を生かした授業改善の推進事業」 授業公開と意見交換に職員派遣 ・2ヶ月に1回の運営推進会議にて意見を聞く場を設けている。 運営推進会議実施回数は5回(※新型コロナウイルスの蔓延 防止のため3月の第6回目は中止)であった。(詳細は多機 能事業報告内)
運	5.防災訓練	・年間防災訓練計画に基づき、初期消火訓練、避難訓練(日勤想定・ 夜間想定)、法人主催の救急救命講習を実施した。・滋賀県総合防災訓練・広域的避難訓練(高島市実施)に参加。	沢区で実施された防災の集いに参加し、過去の地震から備えについて考える機会となり、いざという時の災害用食品の試食をし、意識を高める機会となった。
泡	6.環境美化・保 健衛生	・職員の健康診断(介護職員は年2回)とインフルエンザ予防接種を嘱託医である医療機関にて実施。 ・入居者が気持ちよく過ごせるよう、ユニット内共有部・居室内の清掃に努め、35活動でも各ユニットで美化に努めた。 ・外部業者による害虫駆除を年2回実施した。 ・温度・湿度計を活用し適正な温度、湿度管理に努めた。	・新型コロナウイルス対策として ①職員の出勤前、出退勤時の検温、マスク着用②3月から面会 制限と外出自粛③業者搬入時の玄関での対応④ユニット内定期 的換気を実施 ・今年度から導入しているミニクローラによって、水道水と食 塩にて生成する電解次亜水を最大限に活用し消毒と清掃に活 用した。
	7.在宅支援	・短期入所の稼働率は平均99.1%。 ・入居者の入院時の空床ベッドを活用 ・短期入所を定期的に利用されていた方が、病院に入院されたり老健や特養に入所されたりしてキャンセルが目立ったが、在宅の担当ケアマネージャーとの連絡を密に取りながら、また他事業所にも働きかけ、新規利用者の開拓にも努めた。	・家族の要望に出来る限り応え、また、緊急な受け入れにも柔軟に対応しサービスを提供した。 ・処遇困難なケースに積極的に対応し、地域における認知症高齢者を含めて自立支援を促進した。 ・可能な限り、在宅ケアマネージャー主催のサービス担当者会議に参加し、情報の共有化を行った。
	8. 実習の受け 入れ	 初任者研修にて 10/23 に実習生 2 名を受け入れた。(うち 1 名は法人内職員) 7/22 に法人全体会議にて技能実習生歓迎会を実施。その後基礎研修を経て 7/25~さわの風では 2 名受け入れている。始めは月~金の8:30~17:30の日勤帯での実習から 	スタートし、11/1〜変則勤務を開始。現在は7:00〜16:00 の早出勤務から、13:00〜22:00までの遅出勤務まで実施 している。また、毎週木曜日に担当職員による生活指導、毎週 金曜日15:30〜一週間の反省会と外部講師による日本語教室 を継続して実施している。
	9施設整備	・屋上に設置している太陽熱パネルを最大限活用	特に高額の改修工事等は行わなかった。
	1.利用者自立 支援 /ケアプランの作成	 ケアプランの作成において、定期的なモニタリングやカンファレンス、また退院後や状態変化に合わせ、ご家族への意向の聞き取りもしながら、介護職だけではなく看護師や他職種が連携しケアプラン立案と実行が出来た。 書面に落とせていなかったケアプランの整備にも、徐々に取り組むことが出来た。 重度化により嚥下状態が悪くなってきた利用者に対し、多職種で試行錯誤しながらご本人が食べやすいように工夫することが出来た。 	・法人所属の OT が毎週定期的に来所し、集団リハビリや個人リハビリ、リラクゼーション等を実施。来所時には、車椅子の座位姿勢や臥床時のポジショニングなどその都度相談する事ができた。 ・福祉用具(床走行リフト)を取り入れたことによって、介護度の高い利用者の方(二人介助が必要な方)が離床していただける機会が増えた。
利用者サ	 2.健康管理 3.「食」の提供 	 ・施設嘱託医の連携のもと、早期発見、健康管理、治療において適切な医療サービスを受けられるように努めた。 ・感染症予防対策を早期に取組、継続に出退勤時の手洗い・うがいを徹底した。今年度はインフルエンザやノロウイルスに感染した方はおられないが、加湿器で湿度を充実させるなどの対策を講じた結果、感染予防に繋がった。 ・前年度から継続し、外部業者による検診車を利用して行った。 ・日々の生活の中で大きな楽しみの一つである食事が、その人らしく 	・「急変時・終末期の対応についてのアンケート」について、今の時点での考えを聞きとっている。書面だけで終わるのではなく、個別に詳しく話をする機会を設けている。継続して、体調に変化のあった入居者については、そのアンケートを元にご家族と看護師と一緒に対応の方法や方向性の話し合いを行なっている。ご家族からの「書きにくい」という意見を元に改善し、現在新しい様式のアンケートを作成中である。・行事の無い月に、「食事会」と称しちらし寿司や鍋など楽しみ
l ビ	4.主な行事実	頂ける様に、嗜好や食事の形態、提供時間や方法など個別に検討し 対応している。 ・年末の餅つきは家族や地域の方々の協力を得て実施できた。	の一つとなっている。(年8回) - - - 昨年に引き続き納涼祭開催。高齢となっている「流しそうめ
ス	施状況	 毎年恒例となったブリの解体ショーを面前で行ない、多くの方々に見て頂く事ができ、とても喜ばれていた。 毎月1回フラワーアレンジメント実施。 理美容に関して、馴染みの店がある方は引き続き利用 	ん」も地元の方の協力で行うことができた。 ・今年度も継続して、マキノ図書館の協力で移動図書を実施できた。毎回、楽しみにされている特養入居者、多機能利用者がおられ、好評を得ている。
	5.クラブ活動、 レクリエー ション 6.ボランティ	・入居者の重度化や職員の人員不足により、中々屋外への外出やレクレーションを試みる事が出来なかったが、天気のよい日には屋外への散歩や栗マラソンの応援。 ・毎週第4金曜日に地元マキノ町のお話ボランティアの方により、歌	少しの時間を使ってのボールや遊具でのレクレーション、節分 やひな祭り・クリスマスには飾り付けや催し会をする事で、四 季を感じて頂いた。 ・9/16 歌のボランティア訪問(高島歌劇団)
	6.かフンティ ア	・母週第4金曜日に地元マイノ町のお話パラフティアの方により、歌や紙芝居(本の朗読)を実施。 ・4/29に天理教ひのきしん奉仕作業(除草、窓拭き) ・8/24マキノ中学校から納涼祭のボランティア協力。	・9/16 歌のパランティア訪問(高島歌劇回) ・12/6 歌・踊りボランティア訪問(高島コラボ) ・餅つき会にはマキノ赤十字奉仕団の協力を得て開催すること ができた。

施設名 (小規模多機能) さわの風

【定員】登録定員 18名・通い 15名・宿泊6名(3月31日 【職員】常勤 4人・非常勤8人 合計 12人(常勤換算 8.0人)

	HD公日車1	取組事項 実施状況															
	1.基本		宅生活が ② 月1回 ③ その人の	が継続で	きるよう 支援専門 可能性の	う支援に 門員がご)あるこ	努める。 自宅を訪 とに着目	5問し、3 1し、前向	に、ご ご本人、 回きな気	k人の能 ご家族の 持ちで生	カに応じ D要望に E活を送っ	沿った飛 ってもら	がなるよう えるよう	デメントを? うに支援	実施する	貫れた地垣。	で在
施	2.サービス	通い	 通いサービスは、ご本人・ご家族の状況に応じて、朝食の時間から、夕食後の時間まで臨機応変に対応を継続して行ってきまた。 健康管理 主治医、家族、他事業所とともに連携し、日々の状態変化に対応を行った。必要時は受診等の対応も実施。入院時は早期に病院と連携し、退院時スムーズに生活できるように努めた。 入浴 入浴回数を決めず、ご本人の意向や体調等を見ながら実施できるよう努めたが、職員の配置の関係により希望に添えない状況があった。。 日中活動 これまでに重点を置いてきた個別でのかかわりに加えて、利用者が選択できる活動を準備し、ニーズにあわせ選択して頂ける様、取り組むことが出来た。特に制作活動は季節感のあるものを作り、作成や出来のを楽しみにされていた。 参迎 事故なく安全に実施することができた。 														
設運営		訪問	対応している る。看取り介 定期的なレス	日の定時の訪問に加え、緊急時の連絡が入った際には、要望に沿い対応できるように努めた。早朝や夜間・深夜の訪問にも 対応している。小規模多機能の利点でもある、短時間の安否確認などの訪問を入れることで、独居生活の継続を支えられてい る。看取り介護の際には柔軟な対応を行った。 別的なレスパイトも含めた宿泊サービスの実施。また、緊急時に宿泊も実施している。 日末サービス介護計画書作成人数 19名 作成回数 27回													
	3.介護	計画	② サービ	ス担当者: 多機能型!	会議開催	£13 🗆			同数后								
	4.職員 質向上	の資	利用者本位、 セスメント、	介護技術	、緊急的	寺の対応					 動、人権	 レク	ノーショ	ン、身体	 本拘束、i	忍知症ケア	マ、ア
	5.地域 促進	⑤ フリースペース事業を継続している。毎週水曜日 17:30~21:00 現在 小学生2名 中学生1名 計3名が利用している。 食事提供・入浴の機会の確保・学習の定着を中心に支援を行っている。							うった。 -								
	7.環境美化 保健衛生 の ・ ・インフルエンザ等予防対策の強化として、手洗い、うがいの励行の周知徹底と温度湿 徹底をした。								温度湿度管	理の							
				4月	5月	6月	7月	8月	9月	10 月	11 月	12 月	1月	2月	3月	合計	
			登録者数	16	16	16	16	14	13	15	15	15	14	15	15		
			通い	263	297	282	208	229	210	230	252	258	259	277	244	3009	
			訪問	116	164	199	179	124	127	144	139	133	127	100	130	1682	
	泊り 83 86 88 78 74 57 49 60 60 58 82 70 845 ① 他の事業所で受入が困難である方の受け入れも積極的に行っており、利用される中で落ち着いて生活できる方や介護者の身体的・精神的負担の軽減に貢献できた。 ② 4名の特別養護者人ホームへの入所があった。利用から入所まで3ヵ月程度の利用日数で、契約終了になる方が数名おられ、利用の定着が難しい現状がある。 ③ 運営推進会議を中心に地域との情報交換・共有の場を大切にしていく。 【登録者 要介護5:1名、要介護4:1名 要介護3:2名、要介護2:2名、要介護1:6名、要支援:2名】 【平均要介護度 1.9】 【通い1日平均利用人数 8.2人、月平均宿泊日数70日、月平均訪問回数 140回】								え おら								
	1.構成	Ę	利用者、利用 で構成。全 1		地域住民	民代表(区長、民	生委員、	老人会	会長)、	介護保険	事業に知	印見を有	するもの	の、行政、	さわの屈	八職員
運	2.頻度 3.内容		2ケ月(奇数 特養、小規模						度 場所	ī:さわ	の風玄関	ロビー					
営推			第1回	△ 和	1 年 S F	300	(*) 1	1 🗸	44	3 4 🗇	今和	1 年	11 日 2	0 0 (4	2) 11 &	,	
進			第1回 第2回			30 ⊟ 30 ⊟				34 <u> </u>					記)11名 引)9名	J	
会議	4 宝饰	大治	第3回			30 🛭				60		にて	. /3 스	, ப ()	J/ U [
可找	4.実施状況		運営状況 3 月開催	の報告な	意見交持 う予定だ	- 奥など行 った自己	うことだ 2評価・	が出来た。地域評価	。 iの意見る	交換は、	新型コロ	コナウイ				」 にて意見? 要がある。	

地域密着型小規模特別養護老人ホーム(小規模多機能型居宅介護事業所) さわの風

◎開設年月日 平成23年8月1日 ◎利用定員(長期入所)29名 ◎ショートステイ(短期入所)1名 ◎協力医療等機関 今津病院・マキノ病院・林歯科

1 職員配置数 ※()内は多機能

		·• · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	3.00		
職種	区分	配置基準	現員	常勤 換算	備考
施設長(管理:	者)		1(1)	1(1)	
生 活 相 談	員	1	1	1	
介護支援専	門員	1	1(1)	1(1)	
	員	9.6	19(10)	16.8(6.2)	
<u>介 護 職</u> 看 護 職 栄 養	員	1	3(1)	2.4(0.3)	
栄 養	士		1		本体兼務
<u>調</u> 理 事務	員		1		本体兼務
事 務	員		1.2		本体兼務
<u>医</u>	師		1	0.2	嘱託医
入所者:介	護看	護職員	1.7:1	2:1	

	32.71	10 T / X	71.1	<u>///0 10 3</u>	X\1\1 B\.	
		区	分		入所者	数
				男性	女性	計
要	介	護	1	0	0	0
要	介	護	2	1	1	2
要	介	護	3	1	8	9
要	介	護	4	2	8	10
要要要要合	介	護	5	0	8	8
合	•		計	4	25	29

※特養 要介護度平均 3.8

要介護度別利用者数(多機能)

		区	分		入 所 者 数			
				男性	女性	計		
要	支	援	1	0	2	2		
要	支	援 援	2	0	1	1		
要	介	護	1	3	3	6		
要	介	護	2	0	1	2		
要	介	護	3	0	2	2		
要	介	護	4	0	1	1		
要要要要要合	介	護	5	0	2	1		
合	. 144 61		計		12	15		

※多機能 要介護度平均 1.9

3 特養入居者住所地

<u> </u>	11 5	<u>/\/</u>	<u> </u>	<u> </u>			
		区	分		入所者	数	待機者
町名	3			男性	女性	計	数
	+	1	耳	2	14	16	10
今	<u>}</u>	₽	町	1	9	10	14
新	η	旦 町		1	0	1	4
マ今新安朽	曇	Ш	町	0	1	1	8
朽			木	0	0	0	0
旧	高	島	町	0	1	1	2
<u>旧</u> 合			計	4	25	29	38

5. 年齡•性別 入居者数

	男	女	計
60~64歳	0	0	0
65~69歳	1	0	1
70~74歳	0	0	0
75~79歳	1	2	3
80~84歳	1	5	6
85~89歳	0	4	4
90~94歳	1	7	8
95~99歳	0	4	4
100歳~	0	3	3
合 計	4	25	29
平均年齢			
施設	89歳		
男性	79.5歳		
女性	90.6歳		
最小年齢	67歳	最高年齢	102歳

6.入所期間別状況

6.入所期間別状況											
	1か月~	3か月~	6か月~	1年~	2年以上						
	3か月未満	6か月未満	1年未満	2年未満							
男性	0	0	2	0	2						
女性	2	2	2	5	14						

平均入所期間

男性	2年5	か月
女性	3年4	か月
施設	3年0	か月

小規模多機能登録者住所地

1 /96 125	7.优大乡城形立外占在17.16									
区分		入	所 者	数						
町名	字	男性	女性	計						
マキノ	新保	0	0	0						
	沢		2	3						
	森西		1	1						
	森西 高木浜	0	2	2						
	白谷	0	2	2						
	海津 西浜	0	1	1						
		1	1	2						
	大沼	0	1	1						
今津	下弘部	0	1	1						
	弘川	1	0	1						
	深清水	0	1	1						
台	計	3	12	15						

4.入所者等の状況(特養)

	177777日 1777 1777 1777 1777 1777 1777 1											
		入 所 者 数	左の	内訳	3	新 規	入所	者		退所	者	
年度	月		高島市内	(再入 揭)	在宅・家庭	医療機関	その他	計	死 亡	(再掲看取	その他	計
	4	29	29	1	1			1	1	1		1
平	5	29	29	1								
成	6	29	29	3								
Ξ	7	29	29	3	1			1	1	1		1
平 成 三 十 一	8	29	29	3	1			1	1			1
	9	29	29	2								
年・	10	29	29		1			1	1	1		1
	11	29	29									
和	12	29	29	2	1			1	1			1
元	1	29	28	1	1			1	1		1	2
令和元年度	2	29	29	2		1		1				
度	3	29	29	3								
	計	348	347	21	6	1	0	7	6	3	1	7

入院(月末時点)

7. 基本的生活

(1) 食事状況

(1) 食事状	況					(人)			
区別	自立		要介助						
性別		一部介助	全介助	経管栄養	小計	合計			
男性	3	1	0	0	4	4			
女性	13	3	9	0	25	25			
計	16	4	9	0	29	29			

(2) 排泄状況 (人) 要介助 区分 自立 合計 トイレ誘導 オムツ交換 留置カテーテル 小計 性別 4 4

男性 女性 17 25 25 29 29

(人) (3) 洗面•更衣状況

区分	洗面			合計		更	合計			
性別	自立	一部	全介助		自立	一部	全介助			
男性	1	2	1	4	0	3	1	4		
女性	7	9	9	25	0	14	11	25		
計	8	11	10	29	0	17	12	29		

(4) 移動状況 (人)

	76							() ()		
区別		自立					要介助			
性別	歩行	杖·老人車	車椅子	小計	手引	歩行器	車椅子	小計	合計	
男性	0	1	1	2	0	0	2	2	4	
女性	0	0	4	4	1	0	20	21	25	
計	0	1	5	6	1	0	22	23	29	

			I						I	I				
ユニット型地域密着型 介護老人福祉施設	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	備考
要介護1													0	定員:29名
要介護2	4			62	62	60	62	60	62	62	58	62	554	(開所:平成23年8月1日)
要介護3	291	302	278	238	246	172	215	210	225	259	237	234	2,907	
要介護4	300	322	310	310	326	282	330	300	301	288	278	282	3,629	
要介護5	226	227	210	203	186	261	285	300	296	221	228	248	2,891	
合計延べ利用者数	821	851	798	813	820	775	892	870	884	830	801	826	9,981	
2019年度稼働率(%)	94.3%	94.6%	91.7%	90.4%	91.2%	89.0%	99.2%	100.0%	98.3%	92.3%	95.2%	91.8%	94.0%	平均稼働率
平成30年度稼働率(%)	93.1%	94.5%	96.4%	95.1%	96.2%	96.1%	93.4%	92.4%	97.8%	95.3%	93.8%	94.8%	94.9%	平均稼働率
平成29年度稼働率(%)	91.0%	93.9%	96.4%	100.0%	98.4%	92.5%	94.3%	93.5%	95.6%	91.7%	82.9%	94.1%	93.7%	平均稼働率
ユニット型 短期入所生活介護	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	備考
要支援·他									10				10	定員:1名
要介護1			11	25	22	6	2	3	5	9	17	15	115	(併設空床利用型)
要介護2	8	3	4	8	8	5	22	13		4		4	79	(開所:平成23年8月1日)
要介護3	15	22	21	17	19	14	4	3		8	18	6	147	
要介護4		1								10	1		12	
要介護5													0	
合計延べ利用者数	23	26	36	50	49	25	28	19	15	31	36	25	363	
2019年度稼働率(%)	76.6%	83.8%	120.0%	161.2%	158.0%	83.3%	90.3%	63.3%	48.3%	100.0%	124.1%	80.6%	99.1%	平均稼働率
平成30年度稼働率(%)	103.3%	87.1%	76.7%	71.0%	90.3%	126.7%	83.9%	73.3%	90.3%	96.7%	103.5%	74.1%	89.7%	平均稼働率
平成29年度稼働率(%)	96.6%	83.8%	53.3%	54.8%	87.0%	93.3%	83.8%	66.0%	90.3%	58.0%	53.5%	51.6%	72.7%	平均稼働率
小規模多機能型 居宅介護	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	備考
利用登録者数	16	16	16	16	14	13	15	15	15	14	15	15	180	登録定員:18名 (H30.4~ 15名→18名)
通い利用日数	263	297	282	208	229	210	230	252	258	259	277	244	3,009	通い定員:15名 (H30.8~ 12名→15名)
訪問日数	116	164	199	179	124	127	144	139	133	127	100	130	1,682	宿泊定員:6名
宿泊利用日数	83	86	88	78	74	57	49	60	60	58	82	70	845	(開所:平成23年10月1日)
要支援1	3	3	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	26	
要支援2											1	1	2	
要介護1	6	6	6	5	5	5	5	5	5	6	6	6	66	
要介護2	3	2	1	2	2	2	2	2	2	2	2	2	24	
要介護3	1	2	3	3	2	2	4	4	4	2	2	2	31	
要介護4	2	2	3	3	2	1	1	1	1	1	1	1	19	
要介護5	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12	
合計登録利用者数	16	16	16	16	14	13	15	15	15	14	15	15	180	
2019年度利用登録数(名)	16	16	16	16	14	13	15	15	15	14	15	15	15.0	平均登録者数
平成30年度利用登録数(名)	15	15	16	16	16	18	18	18	18	16	15	14	16.3	平均登録者数
平成29年度利用登録数(名)	14	12	14	14	15	15	14	15	15	15	14	14	14.3	平均登録者数

施設名 やまゆりの里

【定員】 朽木小規模特養入所30名・短期入所6名・DS18名・HHS(休止)・居宅介護 【定員】地域密着型特養入所20名・短期入所2名 【職員】常勤33人・非常勤21人・合計54人(常勤換算41.5人)

	取組事項	·非常勤 21 人·合計 54 人(常勤換算 41.5人) 実施	3
	1.介護保険	・施設: 小規模特養・稼働率 96.5%、地域密善特養・稼働率 95.7%(年間延べ 636 日入院、外泊 6 日、平均稼働率 96.1%。前年より入院日数 2 倍。1.5P減・平均介護度: 小規模特養 3.8、地域密善型 3.6。0.1 増・短期入所: 稼働率、平均 67%。前年度より 17.1 P減	・通所介護:稼働率 53%前年より 7P減。昨年比、延べ利用者302名減。新規利用者22名(内7名利用継続なし)・居宅介護支援事業:月あたり担当実人数平均66名、延べ利用者数553名(予防149名で11名増、介護404名で16名増)。新規の利用者23名で昨年より7名増。
	2. サービスの質 職員の資質向上	 ・施設内研修:リスクマネジメント、感染予防対策、褥瘡予防、身体拘束、嚥下租借研修会、人権研修を実施 ・施設外研修:ユニットリーダー研修(8日間)1名 実務者研修終了、介護福祉士取得1名。初任者研修1名。県核痰吸引研修1名。虐待研修8名参加。他 ・近畿老人福祉施設協(滋賀大会)参加。実行委員3名 	・臨床心理士:6 回、利用者 18 名面接 ・作業療法士:延べ 3052 回の機能訓練実施。(個別と集団) ・言語聴覚士:年4 回、利用者 10 名指導 ・看取り:6名。振り返りカンファレンスの実施 ・家族会 1 回(8 月)家族 16 名職員 11 名の参加 ・運営推進会議:地域密着型特養 6 回・地域密着型通所 2 回
	3.要望等解決	・要望件数3件。実習生から1件。短期入所、2件 3件ともに、施設職員の対応	・全体会議等3回の会議を重ね、5項目の取り組みを実施中 ・3月に法人の要望等解決委員会、研修会に参加した
施設	4.地域貢献等の促進	 ・やまゆり会:会員56名。総会1回・会議2回・学習会2回、参加者延べ48名。(事務局担当) ・5月の山神神社祭礼:利用者35名、職員15名参加・施設夏祭り:中学生、他施設利用者、地域の方等58名・朽木東小学校4年生2回来所(福祉教育の一環) ・朽木住民福祉計画(第3次)実行委員(職員2名) 	・餅つき大会: ご家族、地域住民、民生委員、やまゆり会等の参加(40名)で交流 ・シルバーコーラス・スポリツ林寺拳法・女性の会場所提供・物品貸出:わたがし器、カキ氷器、鉄板、アイス器等・市場夏祭り、ソフトクリーム出店(100食)し交流
運営	5.防災訓練	・年間防災訓練計画を基に日中 1 回、夜間想定 1 回、消火訓練 3 回、夜間通報訓練 1 回、風水害想定避難、炊き出し訓練 (利 20 名、職 15 名参加)。普通救命講習Ⅱに3名参加、救命講習 18 名参加	• 福祉避難所開設訓練学習会参加(4 名参加)
	6.環境美化・保健衛生	・感染予防対策として、電解次亜水生成器を入れ、次亜塩素酸ナトリウム生成。清掃、手指消毒等徹底する・冬期の加湿器の設置、衛生マット、換気で湿度保持・光触媒塗布作業実施(職員対応)	・感染予防対策の強化。利用者、職員の検温実施 ・35活動により、施設内、倉庫の整理整頓実施 ・施設周辺の庭木剪定、伐採、環境美化に努める ・15日を安全点検の日と指定 施設巡回をする
	7.在宅支援	 短期入所介護:稼働率は減少。職員不足に伴う受け入れの調整、利用度の高い方が施設入所となるケースが多かった。今後も各事業所との連携を図り、積極的な利用者支援を実施していきたい 訪問介護:休止継続。こころいちばんホームヘルプサービスの提供にて対応 	
	8.人材育成	・人材育成研究会の参加 副主任・リーダー2名	・管理者、主任による全職員対象の面接の実施
	9.人権活動の推進	・県内管理者人権研修の参加。・市内高齢者虐待防止研修8名参加。・相談窓□連絡会参加・身体拘束廃止研修会2回(11名)	・毎月の月例会、全体会議時には、利用者への尊厳保持と不適切ケアについて周知 ・人権啓発研修 10 名参加 ・毎日、あいさつ標語の唱和。
	10.実習の受け入れ	・10月に、法人主催初任者研修受講者3名の受け入れ。	・従来型施設、2名。ユニット型施設1名。
	11.施設整備 • 備品等更新	地域密着型施設:給湯設備工事実施(3月。高島市)従来型施設:屋上補給水槽入替え工事(3月。高島市)	・従来型施設:浴室浴槽と床の修繕(43万円)市の計画が先 送りとなるため補修。・パラマウントバット3台(68.1万円)
	1.利用者自立支援 /ケアプランの作成	・施設年間ケアカンファレンス実施回数 103 件(定期、要介護認定更新時・個々の状態変化時)・自分でできることを長く維持するための工夫をする	・OT, ST、歯科衛生士等専門職と連携しながら検討し、 継続した支援内容をケアプランに位置づけた。
利用	2.健康管理	・定期健康診断の実施(5月利用者1回実施)、 ・11月インフルエンザ予防接種実施。(利用者・職員) ・月1回定期診察。歯科訪問診療(随時)	・検温の実施など、感染症予防対策に力を入れた。 ・インフルエンザ、ノロウィルスの罹患者はなかった ・4月職員健康診断、11月夜勤職員健康診断実施。
rh 者 サ ー	3.「食」の提供	・面前調理(寿司パーティー・焼肉・手作り餃子・すき焼き)で出来立ての食事をエリアごとに提供。夏祭り・敬 老祝賀会・餅つき・新年祝賀会の行事食を提供。利用者、 ご家族、職員と楽しい時間を共有できた。	
ビス	4.主な行事実施状況	夏祭り、お餅つき:近隣地域へ呼びかけた敬老祝賀会:ご利用者の健康と長寿をお祝い新年祝賀会:新年をみんなでお祝いする	・お花見、紅葉ドライブ、DSミニ運動会、節分、クリスマ スなど季節を感じてもらえる行事ができた
	5.ボランティアの状況	 ・やまゆり会: 行事の支援2回21名・いっぷくボランティア(29名)。つくしの会: 喫茶、お菓子作り、作業 ・日赤奉仕団: 外清掃、襖張替え 2回訪問 ・6月愛隣こども園花の日37名訪問 	・朽木中学生:夏祭り。・映画鑑賞会(上山様)・6月伊勢太神楽の舞。・広瀬仏教婦人部様、お仏壇掃除。ご近所山下様、草取り花壇定植。澤田様・松村様、剪定作業、他今年度も多くの支援を受けた。

朽木小規模特別養護老人ホームやまゆりの里 (指定介護老人福祉施設 滋賀県第2572200273号) 令和2年3月31日現在

◎開設年月日 平成10年1月8日 ◎利用定員(長期入所)30名 ◎ショートステイ(短期入所)6名 ◎協力医療等機関 朽木診療所・今津病院・高島病院・横木歯科

1 噤吕和黑粉

1.4	Ⅰ. 順貝能直致										
職	種	区分	配 置基準数	現員	常勤 換算	備考					
施	設	長	1	1	1	兼務					
事	務	員		1	1	兼務					
生	活相	談員		1	1	兼務					
	護支援	専門員	. 1	1	1	兼務					
<u>管</u> 栄	理 栄	養士		1	1	兼務					
栄	養	士									
<u>介</u> 看	護	職員	12	15	12						
看	護	職員	. 1	4	2.6	兼務					
機	能訓練			1	1	兼務					
調	理	員		4	3.7	兼務					
<u>医</u>		餇	非常勤	1		兼務					
そ	の	伳		6	3.5	兼務					
	計			30							
ı	入所者	f:介護	」護職員(配置基準	3:1)	2.1:1					

2 1 配本件配料

<u>3. 人所有任所地</u>										
区 分		入所者数								
市町村名	旧措置者	H12.4月~	計	待機者数						
大 津 市		2	2	10						
彦根市		0	0	1						
草津市		0	0	1						
長 浜 市		0	0	1						
マキノ町		0	0	3						
今 津 町		2	2	18						
朽 木		10	10	9						
安曇川町		7	7	34						
高島町		5	5	13						
新 旭 町		4	4	14						
他 府 県		0	0	9						
合 計	0	30	30	113						

4 年齡・性別 入所者数

男	女	計
	í	āl
0	0	0
0	0	0
1	0	1
0	1	1
3 6		9
2	12	14
0	5	5
0	0	0
6	24	30
	1 0 3 2 0	1 0 0 1 3 6 2 12 0 5 0 0

平均年齡

施設	90.7
男 性	86.7
女 性	91.7
最小年齢	77
最高年齢	97.7

2. 要介護度別入所者数

区分	入	<u>所者</u>	数
介 護 度	男性	女性	計
要 介 護 1	0	0	0
要 介 護 2	1	2	3
要 介 護 3	1	6	7
要 介 護 4	3	9	12
要 介 護 4 要 介 護 5	1	7	8
合 計	6	24	30

※施設要介護度平均 3.8 1日あたり 介護報酬 ※加質含

利用者負扣(1割)

単位(円)

<u> </u>		/# /T 		11/11 🗀 🙈			
区分	+	ナービス料会	È			食費	
介 護 度	多床室	従来型個室	ユニット	多床室	従来型個室	ユニット	及貝
要 介 護 1	661	661	646	855	1,171	2,006	1,430
要 介 護 2	726	726	714				
要 介 護 3	797	797	787				
要 介 護 4	862	862	857				
要 介 護 5	926	926	925				

※サービス提供体制強化加算 I イ 1日 18単位(円)加算

※看護体制加算 I

1日 6単位(円)加算

※個別機能訓練加算

1日 12単位(円)加算(H31.2.1~算定)

※身体拘束廃止取組 有

※処遇改善加算

加算率 8.3%

※特定処遇改善加算 加算率 2.7%

※高島市地域区分 その他適用 月単位合計に10を乗じた額が実際の負担額です

入所の資格

65歳以上で(特別の場合は65歳未満で (もよい)身体上または精神上の障害がある ため、常時介護を必要としながら、家庭にお いてこれを受けることが困難な方が対象。 , 「ただし、要介護認定により、要介護度3以上 が算定された場合。

施設の目的

介護保険法令に従い、ご契約者(利用者) が、その有する能力に応じ可能な限り自立 した日常生活を営むことができるように支援 することを目的として、日常生活を営むのに 必要な居室及び共用施設などをご利用頂 !き、介護福祉施設サービスを提供する。

地域密着型特別養護老人ホームやまゆりの里 (指定介護老人福祉施設 滋賀県第2572200204号) 令和2年3月31日現在

◎開設年月日 平成10年1月8日 ◎利用定員(長期入所)20名 ◎ショートステイ(短期入所)2名 ◎協力医療等機関 朽木診療所・今津病院・高島病院・横木歯科

1.具	戰員四	比值	重 致					
職	種		区	分	配 置基準数	現 員	常勤 換算	備考
施		設		長	1	1	1	兼務
事		務		員		1	1	兼務
生	活	相	談	員	1	1	1	兼務
介	護支	援	専門	員	1	1	1	兼務
管	理	栄	養	\pm		1	1	兼務
栄		養		\pm	1			
介	護		職	員	10	10	9.25	
看	護		職	員	1	4	1.4	兼務
機	能訓	練	指導	員	1	1	0.4	兼務
調		理		員		4	3.6	兼務
医そ				師	非 常 勤	1	0.1	兼務
そ		の		他		4	2	兼務
		計				29		
	入所	r者	: 介計	隻看	護職員(配置基準	3:1)	2:1

2 】 配去住所州

	入所者数		
旧措置者	H12.4月~	計	待機者数
	2	2	0
	0	0	0
	0	0	0
	0	0	0
	1	1	3
	2	2	7
	10	10	2
	1	1	14
	1	1	9
	3	3	5
	0	0	0
0	20	20	40
		旧措置者 H12.4月~	旧措置者 H12.4月~ 計 2 2 0 0 0 0 1 1 2 2 10 10 1 1 1 1 3 3 0 0

4. 年齡 件別 入所者数

77 7 777 H		
男	女	計
0	0	0
0	0	0
1	0	1
0	1	1
2	6	8
2	5	7
0	2	2
0	1	1
5	15	20
	男 0 0 1 0 2 2 2 0	男 女 0 0 0 0 1 0 0 1 2 6 2 5 0 2 0 1

亚均年龄

施 設	89.6
男 性	85.6
女 性	90.9
最小年齢	73
最高年齢	100

2. 要介護度別入所者数

区 分	入	所 者	数
介護度	男性	女性	計
要 介 護 1	0	0	0
要 介 護 2	0	2	2
要 介 護 3	2	8	10
要 介 護 4	1	1	2
要 介 護 5	2	4	6
合 計	5	15	20

※施設要介護度平均 3.6 1日あたり 介護報酬 ※加質今

利田老台切(1割)

単位(四)

1 1 00/29 // 1		加开口		们用省具			→ 四 (1 1)
区 分	+	ナービス料会	金		居住費		食費
介 護 度	多床室	従来型個室	ユニット	多床室	従来型個室	ユニット	及貝
要介護1	659	659	644	855	1,171	2,006	1,430
要介護 2	724	724	712				
要介護3	794	794	785				
要介護 4	859	859	854				
要 介 護 5	923	923	922				

※サービス提供体制強化加算 I イ

1日 18単位(円)加算

※看護体制加算 I

1日 12単位(円)加算

※個別機能訓練加算

1日 12単位(円)加算(H31.2.1~算定)

※身体拘束廃止取組

有

※処遇改善加算 ※特定処遇改善加算 加算率 8.3% 加算率 2.7%

※高島市地域区分 その他適用 月単位合計に10を乗じた額が実際の負担額です

入所の資格

65歳以上で(特別の場合は65歳未満で もよい)身体上または精神上の障害がある ため、常時介護を必要としながら、家庭にお いてこれを受けることが困難な方が対象。 しただし、要介護認定により、要介護度3以上 が算定された場合。高島市在住を原則とす

施設の目的

介護保険法令に従い、ご契約者(利用者) が、その有する能力に応じ可能な限り自立 した日常生活を営むことができるように支援 することを目的として、日常生活を営むのに 必要な居室及び共用施設などをご利用頂 !き、介護福祉施設サービスを提供する。

2019年度 施設・短期入所 稼働率

4月

5月

6月

7月

8月

9月

10月

11月

12月

1月

2月

3月

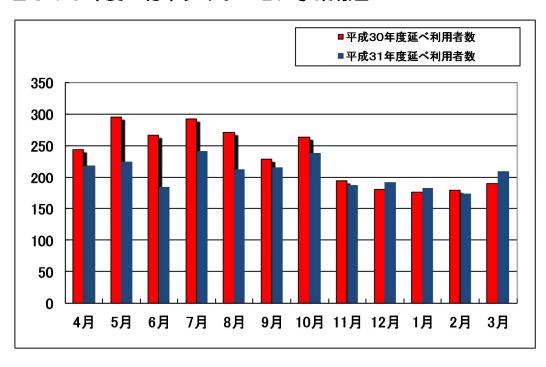
合計

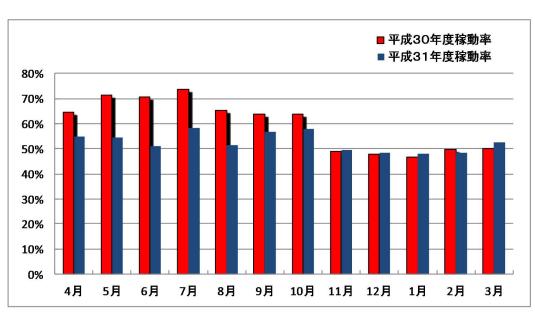
小規模特養

従来型多床室	748	761	770	787	780	774	802	757	792	771	698	785	9,225	定員30名
従来型個室	120	106	95	124	124	120	117	120	124	108	106	111	1,375	(退所6名 入所6名)
在所者計	868	867	865	911	904	894	919	877	916	879	804	896	10,600	
入院	32	57	43	19	26	1	0	23	14	47	77	29	368	
外泊	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	4	
入所在籍者計	900	924	908	930	930	895	919	900	930	930	881	925	10,972	
令和元年度稼働率(%)	96.4%	93.2%	96.1%	98.0%	97.2%	99.3%	98.8%	97.4%	98.5%	94.5%	92.4%	96.3%	96.5%	稼働率
平成30年度稼働率(%)	98.4%	100.0%	98.0%	98.4%	97.0%	98.4%	98.6%	98.2%	99.8%	98.5%	100.0%	99.6%	98.7%	
平成29年度稼働率(%)	98.3%	97.5%	98.3%	100.0%	98.5%	92.6%	98.0%	94.3%	96.3%	96.3%	99.3%	98.9%	97.4%	
平成28年度稼働率(%)	97.3%	95.4%	94.1%	91.5%	93.9%	92.9%	99.5%	100.0%	97.5%	96.7%	96.9%	96.7%	96.0%	
小規模特養短期入所	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	備考
従来型多床室	73	91	69	80	86	70	71	54	61	70	69	69	863	定員6名
従来型個室	45	44	61	52	45	44	33	27	34	36	30	35	486	
合計延べ利用者数	118	135	130	132	131	114	104	81	95	106	99	104	1,349	
令和元年度稼働率(%)	65.6%	71.8%	72.2%	70.2%	69.7%	63.3%	55.3%	45.0%	50.5%	56.4%	56.9%	55.3%	61.0%	稼働率
平成30年度稼働率(%)	90.6%	85.1%	78.3%	62.2%	80.9%	84.4%	80.9%	80.6%	79.8%	84.0%	89.9%	71.8%	80.7%	
			72.8%	73.4%	65.4%	80.0%	81.9%	65.0%	69.1%	62.8%	47.0%	77.7%	69.3%	
平成29年度稼働率(%)	65.6%	71.3%	72.07	70.470										
平成29年度稼働率(%)	65.6% 65.6%	71.3% 81.4%	70.6%	79.3%	86.2%	82.2%	75.0%	78.3%	67.0%	67.0%	71.8%	64.9%	74.1%	
										67.0%	71.8%	64.9%	74.1%	
										67.0% 1月	71.8% 2月	64.9% 3月	74.1% 合計	備考
平成28年度稼働率(%)	65.6%	81.4%	70.6%	79.3%	86.2%	82.2%	75.0%	78.3%	67.0%				合計	備考 定員20名
平成28年度稼働率(%)	4月	81.4% 5月	70.6% 6月	79.3% 7月	86.2%	82.2% 9月	75.0% 10月	78.3%	67.0% 12月	1月	2月	3月	合計	
平成28年度稼働率(%) 地域密着型特養 ユニット型	65.6% 4月 539	81.4% 5月 588	70.6% 6月 600	79.3% 7月 620	86.2% 8月 612	82.2% 9月 552	75.0% 10月 582	78.3% 11月 590	67.0% 12月 571	1月 595	2月 546	3月 614	合計 7,009	定員20名
平成28年度稼働率(%) 地域密着型特養 ユニット型 在所者計	65.6% 4月 539 539	81.4% 5月 588 588	70.6% 6月 600	79.3% 7月 620 620	86.2% 8月 612	82.2% 9月 552 552	75.0% 10月 582 582	78.3% 	67.0% 12月 571	1月 595 595	2月 546 546	3月 614 614	合計 7,009 7,009	定員20名
平成28年度稼働率(%) 地域密着型特養ット型 在所者計	65.6% 4月 539 539 56	81.4% 	70.6% 6月 600 600	79.3% 7月 620 620	86.2% 8月 612 612 8	9月 552 552 48	75.0% 10月 582 582 38	78.3% 11月 590 590 7	67.0% 12月 571 571 49	1月 595 595 24	2月 546 546	3月 614 614	合計 7,009 7,009 268 2	定員20名
平成28年度稼働率(%) 地域密着型特養 ユニット型 在所者計 入院 外泊	4月 539 539 56 0	5月 588 588 29 0	70.6% 6月 600 0 0	79.3% 7月 620 620 0	86.2% 8月 612 612 8	9月 552 552 48 0	75.0% 10月 582 582 38 0	78.3% 11月 590 590 7 0	67.0% 12月 571 571 49 0	1月 595 595 24	2月 546 546 9 0	3月 614 614 0	合計 7,009 7,009 268 2	定員20名 (退所5名、入所6名)
平成28年度稼働率(%) 地域密着型特養 ユニット型 在所者計 入院 外泊 令和元年度稼働率(%)	4月 539 539 56 0 89.8%	5月 588 588 29 0 94.8%	6月 600 600 0 0	79.3% 7月 620 620 0 0 100.0%	86.2% 8月 612 612 8 1 98.7%	9月 552 552 48 0 92.0%	75.0% 10月 582 582 38 0 93.9%	78.3% 11月 590 590 7 0 98.3%	67.0% 12月 571 571 49 0 92.1%	1月 595 595 24 1 96.0%	2月 546 546 9 0 94.1%	3月 614 614 0 0 99.0%	合計 7,009 7,009 268 2 95.7%	定員20名 (退所5名、入所6名)
平成28年度稼働率(%) 地域密着型特養 ユニット型 在所者計 入院 外泊 令和元年度稼働率(%) 平成30年度稼働率(%)	4月 539 539 56 0 89.8% 100.0%	81.4% 5月 588 588 29 0 94.8% 95.3%	6月 600 600 0 0 100.0% 94.2%	79.3% 7月 620 620 0 0 100.0% 96.9%	86.2% 8月 612 612 8 1 98.7% 100.0%	9月 552 552 48 0 92.0% 99.5%	75.0% 10月 582 582 38 0 93.9% 97.9%	78.3% 11月 590 590 7 0 98.3% 96.7%	67.0% 12月 571 571 49 0 92.1% 92.3%	1月 595 595 24 1 96.0% 94.7%	2月 546 546 9 0 94.1% 93.2%	3月 614 614 0 0 99.0% 96.5%	合計 7,009 7,009 268 2 95.7% 96.4%	定員20名 (退所5名、入所6名)
平成28年度稼働率(%) 地域密着型特養 ユニット型 在所者計 入院 外泊 令和元年度稼働率(%) 平成30年度稼働率(%) 平成29年度稼働率(%)	4月 539 539 56 0 89.8% 100.0% 96.8%	5月 588 588 29 0 94.8% 95.3% 91.9%	6月 600 600 0 0 100.0% 94.2% 94.5%	79.3% 7月 620 620 0 0 100.0% 96.9% 94.5%	86.2% 8月 612 612 8 1 98.7% 100.0% 92.9% 96.1%	9月 552 552 48 0 92.0% 99.5% 87.3%	75.0% 10月 582 582 38 0 93.9% 97.9% 99.2% 94.4%	78.3% 11月 590 590 7 0 98.3% 96.7% 98.8% 91.3%	12月 571 571 49 0 92.1% 92.3% 96.3%	1月 595 595 24 1 96.0% 94.7% 95.0%	2月 546 546 9 0 94.1% 93.2% 95.5%	3月 614 614 0 0 99.0% 96.5% 96.8%	合計 7,009 7,009 268 2 95.7% 96.4% 95.0%	定員20名 (退所5名、入所6名)
平成28年度稼働率(%) 地域密着型特養 ユニット型 在所者計 入院 外泊 令和元年度稼働率(%) 平成30年度稼働率(%) 平成29年度稼働率(%) 平成28年度稼働率(%) 地域密着型短期入所	4月 539 539 56 0 89.8% 100.0% 96.8% 97.8%	81.4% 	70.6% 6月 600 0 0 100.0% 94.2% 94.5% 97.2%	79.3% 7月 620 620 0 0 100.0% 96.9% 94.5% 96.1%	86.2% 8月 612 612 8 1 98.7% 100.0% 92.9% 96.1%	9月 552 552 48 0 92.0% 99.5% 87.3% 99.0%	75.0% 10月 582 582 38 0 93.9% 97.9% 99.2% 94.4%	78.3% 11月 590 590 7 0 98.3% 96.7% 98.8% 91.3%	67.0% 12月 571 571 49 0 92.1% 92.3% 96.3% 93.7%	1月 595 595 24 1 96.0% 94.7% 95.0% 98.9%	2月 546 546 9 0 94.1% 93.2% 95.5% 90.5%	3月 614 614 0 0 99.0% 96.5% 96.8% 92.6%	合計 7,009 7,009 268 2 95.7% 96.4% 95.0% 合計	定員20名 (退所5名、入所6名) 稼働率 備考
平成28年度稼働率(%) 地域密着型特養 ユニット型 在所者計 入院 外泊 令和元年度稼働率(%) 平成30年度稼働率(%) 平成29年度稼働率(%) 平成28年度稼働率(%) 地域密着型短期入所 ユニット型	4月 539 539 56 0 89.8% 100.0% 96.8%	5月 588 588 29 0 94.8% 95.3% 91.9%	6月 600 600 0 0 100.0% 94.2% 94.5%	79.3% 7月 620 0 0 100.0% 96.9% 94.5% 96.1%	86.2% 8月 612 612 8 1 98.7% 100.0% 92.9% 96.1%	9月 552 552 48 0 92.0% 99.5% 87.3%	75.0% 10月 582 582 38 0 93.9% 97.9% 99.2% 94.4%	78.3% 11月 590 590 7 0 98.3% 96.7% 98.8% 91.3%	12月 571 571 49 0 92.1% 92.3% 96.3%	1月 595 595 24 1 96.0% 94.7% 95.0%	2月 546 546 9 0 94.1% 93.2% 95.5%	3月 614 614 0 0 99.0% 96.5% 96.8%	合計 7,009 7,009 268 2 95.7% 96.4% 95.0% 合計	定員20名 (退所5名、入所6名) 稼働率
平成28年度稼働率(%) 地域密着型特養 ユニット型 在所者計 入院 外泊 令和元年度稼働率(%) 平成30年度稼働率(%) 平成29年度稼働率(%) 平成28年度稼働率(%) 地域密着型短期入所	4月 539 539 56 0 89.8% 100.0% 96.8% 97.8%	5月 588 588 29 0 94.8% 95.3% 91.9% 5月	70.6% 6月 600 0 0 100.0% 94.2% 94.5% 97.2%	79.3% 7月 620 620 0 0 100.0% 96.9% 94.5% 96.1%	86.2% 8月 612 612 8 1 98.7% 100.0% 92.9% 96.1%	9月 552 552 48 0 92.0% 99.5% 87.3% 99.0%	75.0% 10月 582 582 38 0 93.9% 97.9% 99.2% 94.4%	78.3% 11月 590 590 7 0 98.3% 96.7% 98.8% 91.3%	12月 571 571 49 0 92.1% 92.3% 96.3% 93.7%	1月 595 595 24 1 96.0% 94.7% 95.0% 98.9%	2月 546 546 9 0 94.1% 93.2% 95.5% 90.5%	3月 614 614 0 0 99.0% 96.5% 96.8% 92.6%	合計 7,009 7,009 268 2 95.7% 96.4% 95.0% 95.5% 合計 535	定員20名 (退所5名、入所6名) 稼働率 備考
平成28年度稼働率(%) 地域密着型特養 エニット型 在所者計 入院 外泊 令和元年度稼働率(%) 平成30年度稼働率(%) 平成29年度稼働率(%) 中域密着型短期入所 ユニット型 合計延べ利用者数	4月 539 539 56 0 89.8% 100.0% 96.8% 97.8%	5月 588 588 29 0 94.8% 95.3% 91.9% 5月 54	70.6% 6月 600 0 0 100.0% 94.2% 94.5% 97.2%	79.3% 7月 620 620 0 0 100.0% 96.9% 94.5% 96.1%	86.2% 8月 612 8 1 98.7% 100.0% 92.9% 96.1% 8月 60	9月 552 552 48 0 92.0% 99.5% 87.3% 99.0%	75.0% 10月 582 582 38 0 93.9% 97.9% 99.2% 94.4%	78.3% 11月 590 590 7 0 98.3% 96.7% 98.8% 91.3% 11月 36 36	67.0% 12月 571 571 49 0 92.1% 92.3% 96.3% 91.7%	1月 595 595 24 1 96.0% 94.7% 95.0% 98.9%	2月 546 546 9 0 94.1% 93.2% 95.5% 90.5%	3月 614 614 0 0 99.0% 96.5% 96.8% 92.6%	合計 7,009 7,009 268 2 95.7% 96.4% 95.0% 95.5% 合計 535	定員20名 (退所5名、入所6名) 稼働率 備考 定員2名
平成28年度稼働率(%) 地域密着型特養 ユニット型 在所者計 入院 外泊 令和元年度稼働率(%) 平成30年度稼働率(%) 平成29年度稼働率(%) 平成29年度稼働率(%) 中成28年度稼働率(%) 本域密着型短期入所 ユニット型 合計延べ利用者数	4月 539 539 56 0 89.8% 100.0% 96.8% 97.8%	81.4% 5月 588 588 29 0 94.8% 95.3% 91.9% 97.9% 5月 54 54 54	70.6% 6月 600 0 0 100.0% 94.2% 94.5% 97.2% 6月 49 49	79.3% 7月 620 620 0 0 100.0% 96.9% 94.5% 96.1% 7月 52 52 83.9%	86.2% 8月 612 81 98.7% 100.0% 92.9% 96.1% 8月 60 60	9月 552 552 48 0 92.0% 99.5% 87.3% 99.0% 9月 59 59 98.3%	75.0% 10月 582 582 38 0 93.9% 97.9% 99.2% 94.4% 10月 56 56 90.3%	78.3% 11月 590 590 7 0 98.3% 96.7% 98.8% 91.3% 11月 36 36 60.0%	67.0% 12月 571 571 49 0 92.1% 92.3% 96.3% 93.7% 12月 32 32 51.6%	1月 595 595 24 1 96.0% 94.7% 95.0% 98.9%	2月 546 546 9 0 94.1% 93.2% 95.5% 90.5% 2月 27 27 46.6%	3月 614 614 0 0 99.0% 96.5% 96.8% 92.6% 3月 32 32	合計 7,009 7,009 268 2 95.7% 96.4% 95.5% 合計 535 535 73.0%	定員20名 (退所5名、入所6名) 稼働率 備考 定員2名

備考

2019年度 朽木デイサービス事業報告





	30年度				(31年度)令和元	年度	
	平成30年	平成30年	平成30年	平成30年	平成31年	平成31年	平成31年	平成31年
	度延べ利	度稼働日	度1日平	度稼動率	度延べ利	度稼働日	度2日平均	度稼動率
	用者数	数	均利用者		用者数	数	利用者数	
			数					
4月	244	21	11.62	65%	218	22	9.91	55%
5月	295	23	12.83	71%	225	23	9.78	54%
6月	267	21	12.71	71%	184	20	9.20	51%
7月	292	22	13.27	74%	242	23	10.52	58%
8月	271	23	11.78	65%	213	22	9.68	51%
9月	229	19	12.05	64%	215	21	10.24	57%
10月	264	23	11.48	64%	239	23	10.39	58%
11月	194	22	8.82	49%	187	21	8.90	49%
12月	181	21	8.62	48%	192	22	8.73	48%
1月	176	21	8.38	47%	182	21	8.67	48%
2月	179	20	8.95	50%	174	20	8.70	48%
3月	190	21	9.05	50%	209	22	9.50	53%
合計	2,782	257	10.82	60%	2,480	260	114.22	53%

*利用定員18名

●利用状況について

今年度は、老人保健施設や特養の入所、SSの長期利用などで、年間を通じて利用が下がった。また、冬場は、積雪の日がほぼなかったが、昨年ど同様の利用となった。 新規のご利用は22名あったものの、在宅看取りの方もあり、継続した利用が難しい方も多かった。ご家族は利用に繋げたい思いがあるが、ご本人の拒否があった。

●収支について

年間を通じて、稼働率が落ちているため収支は厳しい状況。

●利用者処遇の向上について

新型コロナウイルス感染症の対応に取り組んでいる。手洗い、うがい等の徹底と迎え時の 検温の実施。また、施設内換気と机等の除菌など、環境面での対策もとった。

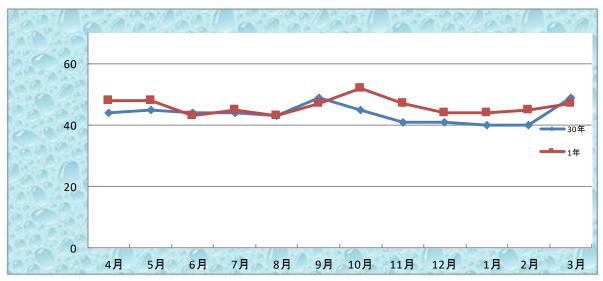
2019年度(令和元年・31年度) 朽木居宅介護支援事業報告

H30年度·31年度比較表

要介護度別月別プラン作成人数

要介護度	要支援	€ 1•2	要介護	養 1	要介	↑護2	要介	↑護3	要介)護4	要介	}護5	合	計
月	30年	1年	30年	1年	30年	1年	30年	1年	30年	1年	30年	1年	30年	1年
4月	11	12	12	12	17	14	4	5	0	5	0	0	44	48
5月	12	11	11	14	18	14	4	5	0	4	0	0	45	48
6月	11	8	13	15	16	11	4	5	0	4	0	0	44	43
7月	11	9	14	16	14	9	5	4	0	7	0	0	44	45
8月	12	9	13	16	15	8	3	5	0	5	0	0	43	43
9月	14	12	13	16	16	9	6	6	0	4	0	0	49	47
10月	13	16	13	17	14	8	3	5	1	5	1	1	45	52
11月	11	12	13	15	14	8	3	6	0	4	0	2	41	47
12月	10	16	12	15	13	8	2	3	2	2	2	0	41	44
1月	11	15	9	15	9	8	7	5	2	1	2	0	40	44
2月	11	13	11	15	7	8	7	6	2	3	2	0	40	45
3月	11	16	12	14	8	7	6	6	6	3	6	1	49	47
合計	138	149	146	180	161	112	54	61	13	47	13	4	525	553

ひと月あたり平均 平成30年度 43.8 令和元年度 46.1



月別福祉用具レンタル及び購入件数・住宅改修件数 サービス担当者会議件数 その他の相談業務件数

	福祉用具レンタル		福祉用	具購入	住宅改修		
	30年度	1年度	30年度	1年度	30年度	1年度	
4月	28	30	0	0	1	2	
5月	28	30	0	0	0	0	
6月	25	27	0	0	0	0	
7月	23	29	0	3	0	1	
8月	24	29	0	0	0	0	
9月	30	29	0	0	1	0	
10月	31	31	1	1	1	1	
11月	22	31	0	3	3	0	
12月	21	29	0	1	1	1	
1月	22	26	0	0	0	0	
2月	17	29	1	1	1	1	
3月	27	31	1	0	2	0	
合計	298	351	3	9	10	6	

ての他	<u>,の相談</u>	未伤件	· <u></u>			
	担当都	皆会議	その他相談業務			
	30年度	1年度	30年度	1年度		
4月	5	5	25	14		
5月	9	8	15	17		
6月	7	7	24	27		
7月	4	9	21	25		
8月	8	4	12	15		
9月	12	8	34	29		
10月	7	9	14	22		
11月	2	5	19	15		
12月	5	4	18	15		
1月	6	3	20	19		
2月	15	10	18	43		
3月	8	7	30	28		
合計	88	79	250	269		

令和元年度は実人数66名、延べ人数553名であった。今年度は新規受け入れが23名と終了者(17名)を上回った事が最終の件数増につながった。2月において、その他の相談業務が多かった。利用に繋がらない相談も多かったが、窓口としての機能は果たせている。 看取りがあったための相談も多かった。

【定員】入居20名 1人部屋18室 2人部屋 1室 【職員】常勤2人・非常勤3人 合計5人(常勤換算 4.4人)

	1,0,12,10000		
	取組事項	実力	拖 状 況
1 1		•8 名の入退居者があり、新入居者3 名の内1 名が介護認	・入居者の高齢化と重度化に伴い、生活面を干渉しなければな
		定者	らない状況もある
	1. 利用状況	・定期的に運営懇談会を開催、入居者からの意見を取り入	
			・
1		れ施設運営に活かす	4
	2. サービスの質		 内部研修はケアワーカー15回、外部研修は相談員2回
	職員の資質向上	管理活動を取り組んだ	・内部研修として人権に関する研修会全職員参加
	14/2(*)2(31	・サービスの質の向上を図るため「福祉サービス自己評価	
		基準」に基づき、サービスの点検と評価を実施	1
	3. 要望等解決	・要望(苦情)等受付件数は0件	・常に入居者のご意見やご要望に耳を傾け、迅速な対応で、満
	3. 女主守胜次		足していただける生活が送れるように努めた
1	4 1517 	・清風荘の行事には、積極的に参加して交流を図った	• 市ヶ崎区と施設共催の市ヶ崎区地域ふれあい交流会に入居者
	4. 地域貢献等の促進		! 8名が参加
1		・年間防災訓練計画に基づき、清風荘と合同で避難訓練4	· 火器 5 名、消火栓 2 名)夜間通報訓練 1 回、消防設備点検 2
	5. 防災訓練	回(内夜間想2回入居者9名参加、日中想定入居者6名参	回、BCP防災訓練2回(内1回は地域合同炊出し訓練
	O. P320/III/K	加、1回は消防署立会)消火訓練2回(消	
1		・35活動により、整理・整頓・清掃に努め、共用部	・ ・ 清風荘の感染症対策委員会と活動し、感染症の予防に努めた
施		分の清掃は、清掃チェック表に基づき実施・浴槽水	・食中毒注意報や腸管出血性大腸菌感染症多発警報の発令期間
		の水質検査(レジオネラ菌検査)は年2回実施	1 21 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3
設		・ 害虫駆除 (6月・10月) を実施	中は、入居者への手洗いと食品の取り扱いへの注意喚起を実施し、衛生管理に努めた
			1
運	6. 環境美化	・衛生研修会「感染症について」入居者3名と一緒に研修	・感染症(ノロウイルス・インフルエンザ等)の予防対策とし
	保健衛生.		: て運営懇談会で入居者の方へ手洗いとうがいの励行を促し
営		・新型コロナウイルス対策-①職員の出勤前、出退勤時	た・11月~3月まで、施設内の手すりやドアノブ等を光触
		の検温、マスク着用(②面会制限と外出自粛③業者の	媒や除菌洗浄水で拭き、ローカの換気や加湿器を使っての温度
		生活階への立入禁止(全定期的換気の放送等を実施	¦温度管理を行う !
		⑤食事の席を対面式から横1列に変更 ⑥自力配膳か	
		ら職員が配膳に変更	
		• 要支援要介護の認定を受け、ホームヘルプサービス	きるように支援した
	7. 在宅支援等	やショートステイ、デイサービス等の在宅サービス用	・在宅サービスの利用状況は、ホームヘルプサービス7名、
	7. E-0.X.R-9	の入居者については、各事業所または担当のケアマネ	ドデイサービス4名
		ージャーとの連携を図りケアハウスでの生活が維持で	
		・人事考課規定により職員は自己評価をすることで業	• 規程変更については速やかに職員に提示
	8. 人事制度	務に対する自己点検となり、職務の意欲向上に繋がっ	• 個人面接実施
		ている	
1		1 (0.10)	:
	0 1 15771 - 1474		1
	9 .人権活動の推進	・清風荘での研修会に参加し、人権に対する意識向上に努	
		・清風荘での研修会に参加し、人権に対する意識向上に努めた	
	10.実習の受入れ	・清風荘での研修会に参加し、人権に対する意識向上に努めた なし	
	10.実習の受入れ 11.施設整備・備品等	・清風荘での研修会に参加し、人権に対する意識向上に努めた なし ・退所後の居室改修(302 千円)	
	10.実習の受入れ	・清風荘での研修会に参加し、人権に対する意識向上に努めた なし ・退所後の居室改修(302 千円) ・厨房自動ドア(178 千円)	しかし、個別処理計画の等定においては入民者で木人の参加は
	10.実習の受入れ 11.施設整備・備品等	・清風柱での研修会に参加し、人権に対する意識向上に努めたなし ・退所後の居室改修(302 千円) ・厨房自動ドア(178 千円) ・生活は、入居者にとって「生活リハビリ」であるこ	しかし、個別処遇計画の策定においては入居者ご本人の参加は
	10.実習の受入れ 11.施設整備・備品等	・清風荘での研修会に参加し、人権に対する意識向上に努めたなし ・退所後の居室改修(302 千円) ・厨房自動ドア(178 千円) ・生活は、入居者にとって「生活リハビリ」であることを念頭に遠くからの見守りを基本として入居者の	しておらず、入居者主体とする計画作成が課題である
	10.実習の受入れ 11.施設整備・備品等	・清風荘での研修会に参加し、人権に対する意識向上に努めたなし ・退所後の居室改修(302 千円) ・厨房自動ドア(178 千円) ・生活は、入居者にとって「生活リハビリ」であることを念頭に遠くからの見守りを基本として入居者の自立した生活が維持できるよう心がけ、定期的に処遇	しておらず、入居者主体とする計画作成が課題である ・要支援者や要介護者の計画にあっては、サービス担当者会議
	10.実習の受入れ 11.施設整備・備品等	・清風荘での研修会に参加し、人権に対する意識向上に努めたなし ・退所後の居室改修(302 千円) ・厨房自動ドア(178 千円) ・生活は、入居者にとって「生活リハビリ」であることを念頭に遠くからの見守りを基本として入居者の自立した生活が維持できるよう心がけ、定期的に処遇検討会議を開催した	しておらず、入居者主体とする計画作成が課題である ・要支援者や要介護者の計画にあっては、サービス担当者会議 に参加し、担当ケアマネージャー作成のケアプランの内容を反
	10実習の受入れ 11.施設整備・備品等 更新	・清風荘での研修会に参加し、人権に対する意識向上に努めたなし ・退所後の居室改修(302 千円) ・厨房自動ドア(178 千円) ・生活は、入居者にとって「生活リハビリ」であることを念頭に遠くからの見守りを基本として入居者の自立した生活が維持できるよう心がけ、定期的に処遇検討会議を開催した ・入居者一人ひとり生活上で「援助すること」「援助し	しておらず、入居者主体とする計画作成が課題である ・要支援者や要介護者の計画にあっては、サービス担当者会議 に参加し、担当ケアマネージャー作成のケアプランの内容を反 映させた
	10実習の受入れ 11.施設整備・備品等 更新	・清風荘での研修会に参加し、人権に対する意識向上に努めたなし ・退所後の居室改修(302 千円) ・厨房自動ドア(178 千円) ・生活は、入居者にとって「生活リハビリ」であることを念頭に遠くからの見守りを基本として入居者の自立した生活が維持できるよう心がけ、定期的に処遇検討会議を開催した ・入居者一人ひとり生活上で「援助すること」「援助しないこと」を明確にした処遇方針・個別処遇計画を作	しておらず、入居者主体とする計画作成が課題である ・要支援者や要介護者の計画にあっては、サービス担当者会議に参加し、担当ケアマネージャー作成のケアプランの内容を反映させた ・要支援者や要介護者の生活で、新たな問題点等は、担当ケア
	10実習の受入れ 11.施設整備・備品等 更新	・清風荘での研修会に参加し、人権に対する意識向上に努めたなし ・退所後の居室改修(302 千円) ・厨房自動ドア(178 千円) ・生活は、入居者にとって「生活リハビリ」であることを念頭に遠くからの見守りを基本として入居者の自立した生活が維持できるよう心がけ、定期的に処遇検討会議を開催した ・入居者一人ひとり生活上で「援助すること」「援助しないこと」を明確にした処遇方針・個別処遇計画を作成。結果、職員は入居者に対して共通した視点で支援	しておらず、入居者主体とする計画作成が課題である ・要支援者や要介護者の計画にあっては、サービス担当者会議 に参加し、担当ケアマネージャー作成のケアプランの内容を反 映させた
	10実習の受入れ 11.施設整備・備品等 更新	・清風荘での研修会に参加し、人権に対する意識向上に努めた なし ・退所後の居室改修(302 千円) ・厨房自動ドア(178 千円) ・生活は、入居者にとって「生活リハビリ」であることを念頭に遠くからの見守りを基本として入居者の自立した生活が維持できるよう心がけ、定期的に処遇検討会議を開催した ・入居者一人ひとり生活上で「援助すること」「援助しないこと」を明確にした処遇方針・個別処遇計画を作成。結果、職員は入居者に対して共通した視点で支援することができた	しておらず、入居者主体とする計画作成が課題である ・要支援者や要介護者の計画にあっては、サービス担当者会議 に参加し、担当ケアマネージャー作成のケアブランの内容を反 映させた ・要支援者や要介護者の生活で、新たな問題点等は、担当ケア マネージャーとの連携を図り、問題解決を図った
	10実習の受入れ 11.施設整備・備品等 更新	・清風荘での研修会に参加し、人権に対する意識向上に努めた なし ・退所後の居室改修(302 千円) ・厨房自動ドア(178 千円) ・生活は、入居者にとって「生活リハビリ」であることを念頭に遠くからの見守りを基本として入居者の自立した生活が維持できるよう心がけ、定期的に処遇検討会議を開催した ・入居者一人ひとり生活上で「援助すること」「援助しないこと」を明確にした処遇方針・個別処遇計画を作成。結果、職員は入居者に対して共通した視点で支援することができた ・入居者の健康面に異常が見られた場合は清風荘の看	しておらず、入居者主体とする計画作成が課題である ・要支援者や要介護者の計画にあっては、サービス担当者会議 に参加し、担当ケアマネージャー作成のケアブランの内容を反 映させた ・要支援者や要介護者の生活で、新たな問題点等は、担当ケア マネージャーとの連携を図り、問題解決を図った ・入居者の認知症予防や精神面の安定を図るために臨床心理士
	10実習の受入れ 11.施設整備・備品等 更新	・清風荘での研修会に参加し、人権に対する意識向上に努めた なし ・退所後の居室改修(302 千円) ・厨房自動ドア(178 千円) ・生活は、入居者にとって「生活リハビリ」であることを念頭に遠くからの見守りを基本として入居者の自立した生活が維持できるよう心がけ、定期的に処遇検討会議を開催した ・入居者一人ひとり生活上で「援助すること」「援助しないこと」を明確にした処遇方針・個別処遇計画を作成。結果、職員は入居者に対して共通した視点で支援することができた ・入居者の健康面に異常が見られた場合は清風荘の看護師へ相談や主治医・医療機関への診察を促し、側面	しておらず、入居者主体とする計画作成が課題である ・要支援者や要介護者の計画にあっては、サービス担当者会議 に参加し、担当ケアマネージャー作成のケアブランの内容を反 映させた ・要支援者や要介護者の生活で、新たな問題点等は、担当ケア マネージャーとの連携を図り、問題解決を図った ・入居者の認知症予防や精神面の安定を図るために臨床心理士 からアドバイスをいただく
和	10実習の受入れ 11.施設整備・備品等 更新	・清風柱での研修会に参加し、人権に対する意識向上に努めた なし ・退所後の居室改修(302 千円) ・厨房自動ドア(178 千円) ・生活は、入居者にとって「生活リハビリ」であることを念頭に遠くからの見守りを基本として入居者の自立した生活が維持できるよう心がけ、定期的に処遇検討会議を開催した ・入居者一人ひとり生活上で「援助すること」「援助しないこと」を明確にした処遇方針・個別処遇計画を作成。結果、職員は入居者に対して共通した視点で支援することができた ・入居者の健康面に異常が見られた場合は清風柱の看護師へ相談や主治医・医療機関への診察を促し、側面的な支援を行った	しておらず、入居者主体とする計画作成が課題である ・要支援者や要介護者の計画にあっては、サービス担当者会議 に参加し、担当ケアマネージャー作成のケアブランの内容を反 映させた ・要支援者や要介護者の生活で、新たな問題点等は、担当ケア マネージャーとの連携を図り、問題解決を図った ・入居者の認知症予防や精神面の安定を図るために臨床心理士 からアドバイスをいただく ・「頭の健康教室」は継続して実施
利	10実習の受入れ 11.施設整備・備品等 更新	・清風荘での研修会に参加し、人権に対する意識向上に努めた なし ・退所後の居室改修(302 千円) ・厨房自動ドア(178 千円) ・生活は、入居者にとって「生活リハビリ」であることを念頭に遠くからの見守りを基本として入居者の自立した生活が維持できるよう心がけ、定期的に処遇検討会議を開催した ・入居者一人ひとり生活上で「援助すること」「援助しないこと」を明確にした処遇方針・個別処遇計画を作成。結果、職員は入居者に対して共通した視点で支援することができた ・入居者の健康面に異常が見られた場合は清風荘の看護師へ相談や主治医・医療機関への診察を促し、側面的な支援を行った ・緊急時の対応に備え、医療機関(主治医)の把握、	しておらず、入居者主体とする計画作成が課題である ・要支援者や要介護者の計画にあっては、サービス担当者会議 に参加し、担当ケアマネージャー作成のケアプランの内容を反 映させた ・要支援者や要介護者の生活で、新たな問題点等は、担当ケア マネージャーとの連携を図り、問題解決を図った ・入居者の認知症予防や精神面の安定を図るために臨床心理士 からアドバイスをいただく ・「頭の健康教室」は継続して実施 ・入院者は骨折1名、心筋梗塞1名、老衰1名、急性胆のう炎
利用	10実習の受入れ 11.施設整備・備品等 更新	・清風柱での研修会に参加し、人権に対する意識向上に努めた なし ・退所後の居室改修(302 千円) ・厨房自動ドア(178 千円) ・生活は、入居者にとって「生活リハビリ」であることを念頭に遠くからの見守りを基本として入居者の自立した生活が維持できるよう心がけ、定期的に処遇検討会議を開催した ・入居者一人ひとり生活上で「援助すること」「援助しないこと」を明確にした処遇方針・個別処遇計画を作成。結果、職員は入居者に対して共通した視点で支援することができた ・入居者の健康面に異常が見られた場合は清風荘の看護師へ相談や主治医・医療機関への診察を促し、側面的な支援を行った ・緊急時の対応に備え、医療機関(主治医)の把握、常時服用している薬の把握に努めた	しておらず、入居者主体とする計画作成が課題である ・要支援者や要介護者の計画にあっては、サービス担当者会議 に参加し、担当ケアマネージャー作成のケアプランの内容を反 映させた ・要支援者や要介護者の生活で、新たな問題点等は、担当ケア マネージャーとの連携を図り、問題解決を図った ・入居者の認知症予防や精神面の安定を図るために臨床心理士 からアドバイスをいただく ・「頭の健康教室」は継続して実施 ・入院者は骨折1名、心筋梗塞1名、老衰1名、急性胆のう炎 1名、峰窩織炎1名
用	10.実習の受入れ 11.施設整備·備品等 更新 1.生活支援·個別支援	・清風荘での研修会に参加し、人権に対する意識向上に努めた なし ・退所後の居室改修(302 千円) ・厨房自動ドア(178 千円) ・生活は、入居者にとって「生活リハビリ」であることを念頭に遠くからの見守りを基本として入居者の自立した生活が維持できるよう心がけ、定期的に処遇検討会議を開催した ・入居者一人ひとり生活上で「援助すること」「援助しないこと」を明確にした処遇方針・個別処遇計画を作成。結果、職員は入居者に対して共通した視点で支援することができた ・入居者の健康面に異常が見られた場合は清風荘の看護師へ相談や主治医・医療機関への診察を促し、側面的な支援を行った ・緊急時の対応に備え、医療機関(主治医)の把握、常時服用している薬の把握に努めた ・転倒及び介護予防のために理学療法士による月2回	しておらず、入居者主体とする計画作成が課題である ・要支援者や要介護者の計画にあっては、サービス担当者会議 に参加し、担当ケアマネージャー作成のケアプランの内容を反 映させた ・要支援者や要介護者の生活で、新たな問題点等は、担当ケア マネージャーとの連携を図り、問題解決を図った ・入居者の認知症予防や精神面の安定を図るために臨床心理士 からアドバイスをいただく ・「頭の健康教室」は継続して実施 ・入院者は骨折1名、心筋梗塞1名、老衰1名、急性胆のう炎 1名、峰窩織炎1名 ・定期健康診断13名実施
用者	10.実習の受入れ 11.施設整備·備品等 更新 1.生活支援·個別支援	・清風荘での研修会に参加し、人権に対する意識向上に努めた なし ・退所後の居室改修(302 千円) ・厨房自動ドア(178 千円) ・生活は、入居者にとって「生活リハビリ」であることを念頭に遠くからの見守りを基本として入居者の自立した生活が維持できるよう心がけ、定期的に処遇検討会議を開催した ・入居者一人ひとり生活上で「援助すること」「援助しないこと」を明確にした処遇方針・個別処遇計画を作成。結果、職員は入居者に対して共通した視点で支援することができた ・入居者の健康面に異常が見られた場合は清風荘の看護師へ相談や主治医・医療機関への診察を促し、側面的な支援を行った ・緊急時の対応に備え、医療機関(主治医)の把握、常時服用している薬の把握に努めた ・転倒及び介護予防のために理学療法士による月2回「健康体操」を実施(21 回実施、平均6名/回参加)	しておらず、入居者主体とする計画作成が課題である ・要支援者や要介護者の計画にあっては、サービス担当者会議 に参加し、担当ケアマネージャー作成のケアプランの内容を反 映させた ・要支援者や要介護者の生活で、新たな問題点等は、担当ケア マネージャーとの連携を図り、問題解決を図った ・入居者の認知症予防や精神面の安定を図るために臨床心理士 からアドバイスをいただく ・「頭の健康教室」は継続して実施 ・入院者は骨折1名、心筋梗塞1名、老衰1名、急性胆のう炎 1名、峰窩織炎1名
用	10.実習の受入れ 11.施設整備·備品等 更新 1.生活支援·個別支援	・清風荘での研修会に参加し、人権に対する意識向上に努めた なし ・退所後の居室改修(302 千円) ・厨房自動ドア(178 千円) ・生活は、入居者にとって「生活リハビリ」であることを念頭に遠くからの見守りを基本として入居者の自立した生活が維持できるよう心がけ、定期的に処遇検討会議を開催した ・入居者一人ひとり生活上で「援助すること」「援助しないこと」を明確にした処遇方針・個別処遇計画を作成。結果、職員は入居者に対して共通した視点で支援することができた ・入居者の健康面に異常が見られた場合は清風荘の看護師へ相談や主治医・医療機関への診察を促し、側面的な支援を行った・緊急時の対応に備え、医療機関(主治医)の把握、常時服用している薬の把握に努めた・転倒及び介護予防のために理学療法士による月2回「健康体操」を実施(21 回実施、平均6名/回参加)・サポート体制を充実するために高島市社会福祉課や	しておらず、入居者主体とする計画作成が課題である ・要支援者や要介護者の計画にあっては、サービス担当者会議 に参加し、担当ケアマネージャー作成のケアプランの内容を反 映させた ・要支援者や要介護者の生活で、新たな問題点等は、担当ケア マネージャーとの連携を図り、問題解決を図った ・入居者の認知症予防や精神面の安定を図るために臨床心理士 からアドバイスをいただく ・「頭の健康教室」は継続して実施 ・入院者は骨折1名、心筋梗塞1名、老衰1名、急性胆のう炎 1名、峰窩織炎1名 ・定期健康診断13名実施
用者	10.実習の受入れ 11.施設整備·備品等 更新 1.生活支援·個別支援	・清風荘での研修会に参加し、人権に対する意識向上に努めた なし ・退所後の居室改修(302 千円) ・厨房自動ドア(178 千円) ・生活は、入居者にとって「生活リハビリ」であることを念頭に遠くからの見守りを基本として入居者の自立した生活が維持できるよう心がけ、定期的に処遇検討会議を開催した ・入居者一人ひとり生活上で「援助すること」「援助しないこと」を明確にした処遇方針・個別処遇計画を作成。結果、職員は入居者に対して共通した視点で支援することができた ・入居者の健康面に異常が見られた場合は清風荘の看護師へ相談や主治医・医療機関への診察を促し、側面的な支援を行った・緊急時の対応に備え、医療機関(主治医)の把握、常時服用している薬の把握に努めた・転倒及び介護予防のために理学療法士による月2回「健康体操」を実施(21 回実施、平均6 名/回参加)・サポート体制を充実するために高島市社会福祉課や民生児童委員との連携のもと"命のバトン"を設置し	しておらず、入居者主体とする計画作成が課題である ・要支援者や要介護者の計画にあっては、サービス担当者会議 に参加し、担当ケアマネージャー作成のケアプランの内容を反 映させた ・要支援者や要介護者の生活で、新たな問題点等は、担当ケア マネージャーとの連携を図り、問題解決を図った ・入居者の認知症予防や精神面の安定を図るために臨床心理士 からアドバイスをいただく ・「頭の健康教室」は継続して実施 ・入院者は骨折1名、心筋梗塞1名、老衰1名、急性胆のう炎 1名、峰窩織炎1名 ・定期健康診断13名実施
用者サー	10.実習の受入れ 11.施設整備·備品等 更新 1.生活支援·個別支援	・清風荘での研修会に参加し、人権に対する意識向上に努めた なし ・退所後の居室改修(302 千円) ・厨房自動ドア(178 千円) ・生活は、入居者にとって「生活リハビリ」であることを念頭に遠くからの見守りを基本として入居者の自立した生活が維持できるよう心がけ、定期的に処遇検討会議を開催した ・入居者一人ひとり生活上で「援助すること」「援助しないこと」を明確にした処遇方針・個別処遇計画を作成。結果、職員は入居者に対して共通した視点で支援することができた ・入居者の健康面に異常が見られた場合は清風荘の看護師へ相談や主治医・医療機関への診察を促し、側面的な支援を行った ・緊急時の対応に備え、医療機関(主治医)の把握、常時服用している薬の把握に努めた ・転倒及び介護予防のために理学療法士による月2回「健康体操」を実施(21回実施、平均6名/回参加)・サポート体制を充実するために高島市社会福祉課や民生児童委員との連携のもと"命のバトン"を設置した。	しておらず、入居者主体とする計画作成が課題である ・要支援者や要介護者の計画にあっては、サービス担当者会議 に参加し、担当ケアマネージャー作成のケアプランの内容を反 映させた ・要支援者や要介護者の生活で、新たな問題点等は、担当ケア マネージャーとの連携を図り、問題解決を図った ・入居者の認知症予防や精神面の安定を図るために臨床心理士 からアドバイスをいただく ・「頭の健康教室」は継続して実施 ・入院者は骨折1名、心筋梗塞1名、老衰1名、急性胆のう炎 1名、峰窩織炎1名 ・定期健康診断13名実施 ・インフルエンザ予防接種は18名中18名実施
用者サービ	10.実習の受入れ 11.施設整備·備品等 更新 1 .生活支援·個別支援 2. 健康管理	・清風荘での研修会に参加し、人権に対する意識向上に努めた なし ・退所後の居室改修(302 千円) ・厨房自動ドア(178 千円) ・生活は、入居者にとって「生活リハビリ」であることを念頭に遠くからの見守りを基本として入居者の自立した生活が維持できるよう心がけ、定期的に処遇検討会議を開催した ・入居者一人ひとり生活上で「援助すること」「援助しないこと」を明確にした処遇方針・個別処遇計画を作成。結果、職員は入居者に対して共通した視点で支援することができた ・入居者の健康面に異常が見られた場合は清風荘の看護師へ相談や主治医・医療機関への診察を促し、側面的な支援を行った・緊急時の対応に備え、医療機関(主治医)の把握、常時服用している薬の把握に努めた・転倒及び介護予防のために理学療法士による月2回「健康体操」を実施(21 回実施、平均6名/回参加)・サボート体制を充実するために高島市社会福祉課や民生児童委員との連携のもと"命のバトン"を設置した。	しておらず、入居者主体とする計画作成が課題である ・要支援者や要介護者の計画にあっては、サービス担当者会議 に参加し、担当ケアマネージャー作成のケアプランの内容を反 映させた ・要支援者や要介護者の生活で、新たな問題点等は、担当ケア マネージャーとの連携を図り、問題解決を図った ・入居者の認知症予防や精神面の安定を図るために臨床心理士 からアドバイスをいただく ・「頭の健康教室」は継続して実施 ・入院者は骨折1名、心筋梗塞1名、老衰1名、急性胆のう炎 1名、峰窩織炎1名 ・定期健康診断13名実施 ・インフルエンザ予防接種は18名中18名実施 ・食べる楽しみとして、昨年度に引き続き月1回の食事会と嗜
用者サー	10.実習の受入れ 11.施設整備·備品等 更新 1.生活支援·個別支援	・清風荘での研修会に参加し、人権に対する意識向上に努めた なし ・退所後の居室改修(302 千円) ・厨房自動ドア(178 千円) ・生活は、入居者にとって「生活リハビリ」であることを念頭に遠くからの見守りを基本として入居者の自立した生活が維持できるよう心がけ、定期的に処遇検討会議を開催した ・入居者一人ひとり生活上で「援助すること」「援助しないこと」を明確にした処遇方針・個別処遇計画を作成。結果、職員は入居者に対して共通した視点で支援することができた ・入居者の健康面に異常が見られた場合は清風荘の看護師へ相談や主治医・医療機関への診察を促し、側面的な支援を行った・緊急時の対応に備え、医療機関(主治医)の把握、常時服用している薬の把握に努めた・転倒及び介護予防のために理学療法士による月2回「健康体操」を実施(21回実施、平均6名/回参加)・サボート体制を充実するために高島市社会福祉課や民生児童委員との連携のもと"命のバトン"を設置した。 ・嗜好調査や給食会議は例年どおり実施、入居者のご意見を取り入れ、美味しい満足していただける食事提供を行っ	しておらず、入居者主体とする計画作成が課題である ・要支援者や要介護者の計画にあっては、サービス担当者会議 に参加し、担当ケアマネージャー作成のケアプランの内容を反 映させた ・要支援者や要介護者の生活で、新たな問題点等は、担当ケア マネージャーとの連携を図り、問題解決を図った ・入居者の認知症予防や精神面の安定を図るために臨床心理士 からアドバイスをいただく ・「頭の健康教室」は継続して実施 ・入院者は骨折1名、心筋梗塞1名、老衰1名、急性胆のう炎 1名、峰窩織炎1名 ・定期健康診断13名実施 ・インフルエンザ予防接種は18名中18名実施
用者サービ	10.実習の受入れ 11.施設整備·備品等 更新 1 .生活支援·個別支援 2. 健康管理	・清風荘での研修会に参加し、人権に対する意識向上に努めた なし ・退所後の居室改修(302 千円) ・厨房自動ドア(178 千円) ・生活は、入居者にとって「生活リハビリ」であることを念頭に遠くからの見守りを基本として入居者の自立した生活が維持できるよう心がけ、定期的に処遇検討会議を開催した ・入居者一人ひとり生活上で「援助すること」「援助しないこと」を明確にした処遇方針・個別処遇計画を作成。結果、職員は入居者に対して共通した視点で支援することができた ・入居者の健康面に異常が見られた場合は清風荘の看護師へ相談や主治医・医療機関への診察を促し、側面的な支援を行った・緊急時の対応に備え、医療機関(主治医)の把握、常時服用している薬の把握に努めた・転倒及び介護予防のために理学療法士による月2回「健康体操」を実施(21回実施、平均6名/回参加)・サボート体制を充実するために高島市社会福祉課や民生児童委員との連携のもと"命のバトン"を設置した。 ・嗜好調査や給食会議は例年どおり実施、入居者のご意見を取り入れ、美味しい満足していただける食事提供を行った	しておらず、入居者主体とする計画作成が課題である ・要支援者や要介護者の計画にあっては、サービス担当者会議 に参加し、担当ケアマネージャー作成のケアプランの内容を反 映させた ・要支援者や要介護者の生活で、新たな問題点等は、担当ケア マネージャーとの連携を図り、問題解決を図った ・入居者の認知症予防や精神面の安定を図るために臨床心理士 からアドバイスをいただく ・「頭の健康教室」は継続して実施 ・入院者は骨折1名、心筋梗塞1名、老衰1名、急性胆のう炎 1名、峰窩織炎1名 ・定期健康診断13名実施 ・インフルエンザ予防接種は18名中18名実施 ・インフルエンザ予防接種は18名中18名実施
用者サービ	10.実習の受入れ 11.施設整備·備品等 更新 1 .生活支援·個別支援 2. 健康管理	・清風荘での研修会に参加し、人権に対する意識向上に努めた なし ・退所後の居室改修(302 千円) ・厨房自動ドア(178 千円) ・生活は、入居者にとって「生活リハビリ」であることを念頭に遠くからの見守りを基本として入居者の自立した生活が維持できるよう心がけ、定期的に処遇検討会議を開催した ・入居者一人ひとり生活上で「援助すること」「援助しないこと」を明確にした処遇方針・個別処遇計画を作成。結果、職員は入居者に対して共通した視点で支援することができた ・入居者の健康面に異常が見られた場合は清風荘の看護師へ相談や主治医・医療機関への診察を促し、側面的な支援を行った・緊急時の対応に備え、医療機関(主治医)の把握、常時服用している薬の把握に努めた・転倒及び介護予防のために理学療法士による月2回「健康体操」を実施(21回実施、平均6名/回参加)・サポート体制を充実するために高島市社会福祉課や民生児童委員との連携のもと"命のバトン"を設置した。 ・嗜好調査や給食会議は例年どおり実施、入居者のご意見を取り入れ、美味しい満足していただける食事提供を行った	しておらず、入居者主体とする計画作成が課題である ・要支援者や要介護者の計画にあっては、サービス担当者会議 に参加し、担当ケアマネージャー作成のケアプランの内容を反 映させた ・要支援者や要介護者の生活で、新たな問題点等は、担当ケア マネージャーとの連携を図り、問題解決を図った ・入居者の認知症予防や精神面の安定を図るために臨床心理士 からアドバイスをいただく ・「頭の健康教室」は継続して実施 ・入院者は骨折1名、心筋梗塞1名、老衰1名、急性胆のう炎 1名、峰窩織炎1名 ・定期健康診断13名実施 ・インフルエンザ予防接種は18名中18名実施 ・インフルエンザ予防接種は18名中18名実施 ・食べる楽しみとして、昨年度に引き続き月1回の食事会と嗜 好食事(出前)を実施
用者サービ	10.実習の受入れ 11.施設整備·備品等 更新 1 .生活支援·個別支援 2. 健康管理	・清風荘での研修会に参加し、人権に対する意識向上に努めた なし ・退所後の居室改修(302 千円) ・厨房自動ドア(178 千円) ・生活は、入居者にとって「生活リハビリ」であることを念頭に遠くからの見守りを基本として入居者の自立した生活が維持できるよう心がけ、定期的に処遇検討会議を開催した ・入居者一人ひとり生活上で「援助すること」「援助しないこと」を明確にした処遇方針・個別処遇計画を作成。結果、職員は入居者に対して共通した視点で支援することができた ・入居者の健康面に異常が見られた場合は清風荘の看護師へ相談や主治医・医療機関への診察を促し、側面的な支援を行った・緊急時の対応に備え、医療機関(主治医)の把握、常時服用している薬の把握に努めた・転倒及び介護予防のために理学療法士による月2回「健康体操」を実施(21回実施、平均6名/回参加)・サポート体制を充実するために高島市社会福祉課や民生児童委員との連携のもと"命のバトン"を設置した。 ・嗜好調査や給食会議は例年どおり実施、入居者のご意見を取り入れ、美味しい満足していただける食事提供を行った	しておらず、入居者主体とする計画作成が課題である ・要支援者や要介護者の計画にあっては、サービス担当者会議 に参加し、担当ケアマネージャー作成のケアプランの内容を反 映させた ・要支援者や要介護者の生活で、新たな問題点等は、担当ケア マネージャーとの連携を図り、問題解決を図った ・入居者の認知症予防や精神面の安定を図るために臨床心理士 からアドバイスをいただく ・「頭の健康教室」は継続して実施 ・入院者は骨折1名、心筋梗塞1名、老衰1名、急性胆のう炎 1名、峰窩織炎1名 ・定期健康診断13名実施 ・インフルエンザ予防接種は18名中18名実施 ・インフルエンザ予防接種は18名中18名実施 ・自帰り旅行を2日に分け実施(計6名参加) ・今津図書館の出張図書として『じゅらく文庫』を継続、入居
用者サービ	10.実習の受入れ 11.施設整備・備品等 更新 1.生活支援・個別支援 2.健康管理 3.食の提供	・清風荘での研修会に参加し、人権に対する意識向上に努めた なし ・退所後の居室改修(302 千円) ・厨房自動ドア(178 千円) ・生活は、入居者にとって「生活リハビリ」であることを念頭に遠くからの見守りを基本として入居者の自立した生活が維持できるよう心がけ、定期的に処遇検討会議を開催した ・入居者一人ひとり生活上で「援助すること」「援助しないこと」を明確にした処遇方針・個別処遇計画を作成。結果、職員は入居者に対して共通した視点で支援することができた ・入居者の健康面に異常が見られた場合は清風荘の看護師へ相談や主治医・医療機関への診察を促し、側面的な支援を行った・緊急時の対応に備え、医療機関(主治医)の把握、常時服用している薬の把握に努めた・転倒及び介護予防のために理学療法士による月2回「健康体操」を実施(21回実施、平均6名/回参加)・サポート体制を充実するために高島市社会福祉課や民生児童委員との連携のもと"命のバトン"を設置した。 ・嗜好調査や給食会議は例年どおり実施、入居者のご意見を取り入れ、美味しい満足していただける食事提供を行った ・月2回開催される特養の行事である喫茶さざなみへの参加を促した・生活支援として買物クラブ(毎週金曜日)	しておらず、入居者主体とする計画作成が課題である ・要支援者や要介護者の計画にあっては、サービス担当者会議 に参加し、担当ケアマネージャー作成のケアプランの内容を反 映させた ・要支援者や要介護者の生活で、新たな問題点等は、担当ケア マネージャーとの連携を図り、問題解決を図った ・入居者の認知症予防や精神面の安定を図るために臨床心理士 からアドバイスをいただく ・「頭の健康教室」は継続して実施 ・入院者は骨折1名、心筋梗塞1名、老衰1名、急性胆のう炎 1名、峰窩織炎1名 ・定期健康診断13名実施 ・インフルエンザ予防接種は18名中18名実施 ・インフルエンザ予防接種は18名中18名実施 ・自帰り旅行を2日に分け実施(計6名参加) ・今津図書館の出張図書として『じゅらく文庫』を継続、入居者に本に触れてもらうことができ、入居者のコミュニケーショ
用者サービ	10.実習の受入れ 11.施設整備·備品等 更新 1 .生活支援·個別支援 2. 健康管理	・清風荘での研修会に参加し、人権に対する意識向上に努めた なし ・退所後の居室改修(302 千円) ・厨房自動ドア(178 千円) ・生活は、入居者にとって「生活リハビリ」であることを念頭に遠くからの見守りを基本として入居者の自立した生活が維持できるよう心がけ、定期的に処遇検討会議を開催した ・入居者一人ひとり生活上で「援助すること」「援助しないこと」を明確にした処遇方針・個別処遇計画を作成。結果、職員は入居者に対して共通した視点で支援することができた ・入居者の健康面に異常が見られた場合は清風荘の看護師へ相談や主治医・医療機関への診察を促し、側面的な支援を行った ・緊急時の対応に備え、医療機関(主治医)の把握、常時服用している薬の把握に努めた・転倒及び介護予防のために理学療法士による月2回「健康体操」を実施(21回実施、平均6名/回参加)・サポート体制を充実するために高島市社会福祉課や民生児童委員との連携のもと"命のバトン"を設置した。 ・嗜好調査や給食会議は例年どおり実施、入居者のご意見を取り入れ、美味しい満足していただける食事提供を行った ・月2回開惟される特養の行事である喫茶さざなみへの参加を促した・生活支援として買物クラブ(毎週金曜日)・映画会(毎月)	しておらず、入居者主体とする計画作成が課題である ・要支援者や要介護者の計画にあっては、サービス担当者会議 に参加し、担当ケアマネージャー作成のケアプランの内容を反 映させた ・要支援者や要介護者の生活で、新たな問題点等は、担当ケア マネージャーとの連携を図り、問題解決を図った ・入居者の認知症予防や精神面の安定を図るために臨床心理士 からアドバイスをいただく ・「頭の健康教室」は継続して実施 ・入院者は骨折1名、心筋梗塞1名、老衰1名、急性胆のう炎 1名、峰窩織炎1名 ・定期健康診断13名実施 ・インフルエンザ予防接種は18名中18名実施 ・インフルエンザ予防接種は18名中18名実施 ・自帰り旅行を2日に分け実施(計6名参加) ・今津図書館の出張図書として『じゅらく文庫』を継続、入居者に本に触れてもらうことができ、入居者のコミュニケーションツールとなった
用者サービ	10.実習の受入れ 11.施設整備・備品等 更新 1.生活支援・個別支援 2.健康管理 3.食の提供	・清風荘での研修会に参加し、人権に対する意識向上に努めた なし ・退所後の居室改修(302 千円) ・厨房自動ドア(178 千円) ・生活は、入居者にとって「生活リハビリ」であることを念頭に遠くからの見守りを基本として入居者の自立した生活が維持できるよう心がけ、定期的に処遇検討会議を開催した ・入居者一人ひとり生活上で「援助すること」「援助しないこと」を明確にした処遇方針・個別処遇計画を作成。結果、職員は入居者に対して共通した視点で支援することができた ・入居者の健康面に異常が見られた場合は清風荘の看護師へ相談や主治医・医療機関への診察を促し、側面的な支援を行った ・緊急時の対応に備え、医療機関(主治医)の把握、常時服用している薬の把握に努めた・転倒及び介護予防のために理学療法士による月2回「健康体操」を実施(21回実施、平均6名/回参加)・サポート体制を充実するために高島市社会福祉課や民生児童委員との連携のもと"命のバトン"を設置した。 ・嗜好調査や給食会議は例年どおり実施、入居者のご意見を取り入れ、美味しい満足していただける食事提供を行った ・月2回開催される特養の行事である喫茶さざなみへの参加を促した・生活支援として買物クラブ(毎週金曜日)・映画会(毎月)・お菓子作り(栄養士と連携で隔月)	しておらず、入居者主体とする計画作成が課題である ・要支援者や要介護者の計画にあっては、サービス担当者会議 に参加し、担当ケアマネージャー作成のケアプランの内容を反 映させた ・要支援者や要介護者の生活で、新たな問題点等は、担当ケア マネージャーとの連携を図り、問題解決を図った ・入居者の認知症予防や精神面の安定を図るために臨床心理士 からアドバイスをいただく ・「頭の健康教室」は継続して実施 ・入院者は骨折1名、心筋梗塞1名、老衰1名、急性胆のう炎 1名、峰窩織炎1名 ・定期健康診断13名実施 ・インフルエンザ予防接種は18名中18名実施 ・インフルエンザ予防接種は18名中18名実施 ・自帰り旅行を2日に分け実施(計6名参加) ・今津図書館の出張図書として『じゅらく文庫』を継続、入居者に本に触れてもらうことができ、入居者のコミュニケーショ
用者サービ	10.実習の受入れ 11.施設整備・備品等 更新 1.生活支援・個別支援 2.健康管理 3.食の提供	・清風荘での研修会に参加し、人権に対する意識向上に努めた なし ・退所後の居室改修(302 千円) ・厨房自動ドア(178 千円) ・生活は、入居者にとって「生活リハビリ」であることを念頭に遠くからの見守りを基本として入居者の自立した生活が維持できるよう心がけ、定期的に処遇検討会議を開催した ・入居者一人ひとり生活上で「援助すること」「援助しないこと」を明確にした処遇方針・個別処遇計画を作成。結果、職員は入居者に対して共通した視点で支援することができた ・入居者の健康面に異常が見られた場合は清風荘の看護師へ相談や主治医・医療機関への診察を促し、側面的な支援を行った ・緊急時の対応に備え、医療機関(主治医)の把握、常時服用している薬の把握に努めた・転倒及び介護予防のために理学療法士による月2回「健康体操」を実施(21回実施、平均6名/回参加)・サポート体制を充実するために高島市社会福祉課や民生児童委員との連携のもと"命のバトン"を設置した。 ・嗜好調査や給食会議は例年どおり実施、入居者のご意見を取り入れ、美味しい満足していただける食事提供を行った ・月2回開惟される特養の行事である喫茶さざなみへの参加を促した・生活支援として買物クラブ(毎週金曜日)・映画会(毎月)・お菓子作り(栄養士と連携で隔月)・ケアハウス単独の行事としては、ドライブを兼ねた外食	しておらず、入居者主体とする計画作成が課題である ・要支援者や要介護者の計画にあっては、サービス担当者会議 に参加し、担当ケアマネージャー作成のケアプランの内容を反 映させた ・要支援者や要介護者の生活で、新たな問題点等は、担当ケア マネージャーとの連携を図り、問題解決を図った ・入居者の認知症予防や精神面の安定を図るために臨床心理士 からアドバイスをいただく ・「頭の健康教室」は継続して実施 ・入院者は骨折1名、心筋梗塞1名、老衰1名、急性胆のう炎 1名、峰窩織炎1名 ・定期健康診断13名実施 ・インフルエンザ予防接種は18名中18名実施 ・インフルエンザ予防接種は18名中18名実施 ・自帰り旅行を2日に分け実施(計6名参加) ・今津図書館の出張図書として『じゅらく文庫』を継続、入居者に本に触れてもらうことができ、入居者のコミュニケーションツールとなった
用者サービ	10.実習の受入れ 11.施設整備・備品等 更新 1.生活支援・個別支援 2.健康管理 3.食の提供	・清風荘での研修会に参加し、人権に対する意識向上に努めた なし ・退所後の居室改修(302 千円) ・厨房自動ドア(178 千円) ・生活は、入居者にとって「生活リハビリ」であることを念頭に遠くからの見守りを基本として入居者の自立した生活が維持できるよう心がけ、定期的に処遇検討会議を開催した ・入居者一人ひとり生活上で「援助すること」「援助しないこと」を明確にした処遇方針・個別処遇計画を作成。結果、職員は入居者に対して共通した視点で支援することができた ・入居者の健康面に異常が見られた場合は清風荘の看護師へ相談や主治医・医療機関への診察を促し、側面的な支援を行った ・緊急時の対応に備え、医療機関(主治医)の把握、常時服用している薬の把握に努めた・転倒及び介護予防のために理学療法士による月2回「健康体操」を実施(21回実施、平均6名/回参加)・サポート体制を充実するために高島市社会福祉課や民生児童委員との連携のもと"命のバトン"を設置した。 ・嗜好調査や給食会議は例年どおり実施、入居者のご意見を取り入れ、美味しい満足していただける食事提供を行った ・月2回開惟される特養の行事である喫茶さざなみへの参加を促した・生活支援として買物クラブ(毎週金曜日)・映画会(毎月)・お菓子作り(栄養士と連携で隔月)・ケアハウス単独の行事としては、ドライブを兼ねた外食行事を実施(23名参加)	しておらず、入居者主体とする計画作成が課題である ・要支援者や要介護者の計画にあっては、サービス担当者会議に参加し、担当ケアマネージャー作成のケアプランの内容を反映させた ・要支援者や要介護者の生活で、新たな問題点等は、担当ケアマネージャーとの連携を図り、問題解決を図った ・入居者の認知症予防や精神面の安定を図るために臨床心理士からアドバイスをいただく ・「頭の健康教室」は継続して実施・入院者は骨折1名、心筋梗塞1名、老衰1名、急性胆のう炎1名、峰窩織炎1名・定期健康診断13名実施・インフルエンザ予防接種は18名中18名実施・インフルエンザ予防接種は18名中18名実施・自帰り旅行を2日に分け実施(計6名参加)・今津図書館の出張図書として『じゅらく文庫』を継続、入居者に本に触れてもらうことができ、入居者のコミュニケーションツールとなった・音楽療法士による音楽療法(4回)
用者サービ	10.実習の受入れ 11.施設整備・備品等 更新 1.生活支援・個別支援 2.健康管理 3.食の提供	・清風荘での研修会に参加し、人権に対する意識向上に努めた なし ・退所後の居室改修(302 千円) ・厨房自動ドア(178 千円) ・生活は、入居者にとって「生活リハビリ」であることを念頭に遠くからの見守りを基本として入居者の自立した生活が維持できるよう心がけ、定期的に処遇検討会議を開催した ・入居者一人ひとり生活上で「援助すること」「援助しないこと」を明確にした処遇方針・個別処遇計画を作成。結果、職員は入居者に対して共通した視点で支援することができた ・入居者の健康面に異常が見られた場合は清風荘の看護師へ相談や主治医・医療機関への診察を促し、側面的な支援を行った ・緊急時の対応に備え、医療機関(主治医)の把握、常時服用している薬の把握に努めた・転倒及び介護予防のために理学療法士による月2回「健康体操」を実施(21回実施、平均6名/回参加)・サポート体制を充実するために高島市社会福祉課や民生児童委員との連携のもと"命のバトン"を設置した。 ・嗜好調査や給食会議は例年どおり実施、入居者のご意見を取り入れ、美味しい満足していただける食事提供を行った ・月2回開惟される特養の行事である喫茶さざなみへの参加を促した・生活支援として買物クラブ(毎週金曜日)・映画会(毎月)・お菓子作り(栄養士と連携で隔月)・ケアハウス単独の行事としては、ドライブを兼ねた外食行事を実施(23名参加)・活動支援としてボランティアによる創作活動(お楽しみ	しておらず、入居者主体とする計画作成が課題である ・要支援者や要介護者の計画にあっては、サービス担当者会議に参加し、担当ケアマネージャー作成のケアプランの内容を反映させた ・要支援者や要介護者の生活で、新たな問題点等は、担当ケアマネージャーとの連携を図り、問題解決を図った ・入居者の認知症予防や精神面の安定を図るために臨床心理士からアドバイスをいただく ・「頭の健康教室」は継続して実施 ・入院者は骨折1名、心筋梗塞1名、老衰1名、急性胆のう炎1名、峰窩織炎1名 ・定期健康診断13名実施 ・インフルエンザ予防接種は18名中18名実施 ・自帰り旅行を2日に分け実施(計6名参加) ・今津図書館の出張図書として『じゅらく文庫』を継続、入居者に本に触れてもらうことができ、入居者のコミュニケーションツールとなった ・音楽療法士による音楽療法(4回)
用者サービ	10.実習の受入れ 11.施設整備・備品等 更新 1.生活支援・個別支援 2.健康管理 3.食の提供	・清風荘での研修会に参加し、人権に対する意識向上に努めた なし ・退所後の居室改修(302 千円) ・厨房自動ドア(178 千円) ・生活は、入居者にとって「生活リハビリ」であることを念頭に遠くからの見守りを基本として入居者の自立した生活が維持できるよう心がけ、定期的に処遇検討会議を開催した ・入居者一人ひとり生活上で「援助すること」「援助しないこと」を明確にした処遇方針・個別処遇計画を作成。結果、職員は入居者に対して共通した視点で支援することができた ・入居者の健康面に異常が見られた場合は清風荘の看護師へ相談や主治医・医療機関への診察を促し、側面的な支援を行った ・緊急時の対応に備え、医療機関(主治医)の把握、常時服用している薬の把握に努めた・転倒及び介護予防のために理学療法士による月2回「健康体操」を実施(21回実施、平均6名/回参加)・サポート体制を充実するために高島市社会福祉課や民生児童委員との連携のもと"命のバトン"を設置した。 ・嗜好調査や給食会議は例年どおり実施、入居者のご意見を取り入れ、美味しい満足していただける食事提供を行った ・月2回開惟される特養の行事である喫茶さざなみへの参加を促した・生活支援として買物クラブ(毎週金曜日)・映画会(毎月)・お菓子作り(栄養士と連携で隔月)・ケアハウス単独の行事としては、ドライブを兼ねた外食行事を実施(23名参加)	しておらず、入居者主体とする計画作成が課題である ・要支援者や要介護者の計画にあっては、サービス担当者会議に参加し、担当ケアマネージャー作成のケアプランの内容を反映させた ・要支援者や要介護者の生活で、新たな問題点等は、担当ケアマネージャーとの連携を図り、問題解決を図った ・入居者の認知症予防や精神面の安定を図るために臨床心理士からアドバイスをいただく ・「頭の健康教室」は継続して実施・入院者は骨折1名、心筋梗塞1名、老衰1名、急性胆のう炎1名、峰窩織炎1名・定期健康診断13名実施・インフルエンザ予防接種は18名中18名実施・インフルエンザ予防接種は18名中18名実施・自帰り旅行を2日に分け実施(計6名参加)・今津図書館の出張図書として『じゅらく文庫』を継続、入居者に本に触れてもらうことができ、入居者のコミュニケーションツールとなった・音楽療法士による音楽療法(4回)

ケアハウスじゅらく 入所者等状況一覧

_事業開始年月日	平成11年11月 1日
定員	20名
居室状況	1人部屋 19室
	2人部屋 1室

1. 職員状況

<u> 1. </u>			
区分 職種	人数	常勤 換算	備考
施 設 長	1		兼務
施 設 長 事 務 員	1		兼務
生活相談員	1	1.0	
介 護 職 員	5	4.4	
看 護 職 員			
看 護 職 員 栄 養 士			
調 理 員	1	1.0	
医 師			
介 助 員			
その他			
計	9	6.4	

2. 入所者状況 (年齢·性別)

<u> </u>	U \	T /33 /	
	男	女	計
60~64歳	0	0	0
65~69歳	0	1	1
70~74歳	1	1	2
75~79歳	1	0	1
80~84歳	0	2	2
85~89歳	1	7	8
90~94歳	0	3	3
95~99歳	0	1	1
100歳~	0	0	0
合 計	3	15	18
平均年齢			
施 設	85.19歳		
男 性	80.25歳		
女 性	86.23歳		
最小年齢	68歳11カ月		
最高年齢	97歳4カ月		

令和2年3月31日 現在

3. 入所者要介護認定状況

	×	<u>.</u>	分	入所者数			
				男性	女性	計	区分割合
自			片	3	6	9	50%
要	支	援	1	0	1	1	6%
要	支	援	2	0	1	1	6%
要 要	介	護	1	0	4	4	22%
要	介	護	2		3	3	17%
要	介	護	3			0	0%
要 要	介	護	4			0	0%
要	介	護	5			0	0%
合			計	3	15	18	100%

4. 入所期間状況

<u> </u>	<i>N 11</i> 1		
	入	所 者	数
	男性	女性	計
1年未満	1	1	2
1年以上		9	9
3年以上	1	1	2
5年以上	1	1	2
10年以上		2	2
15年以上		1	1
合 計	3	15	18
平均入所期間	4年2ヶ月	4年8ヶ月	4年7ヶ月

5. 入所者住所地

<u> </u>			1/1 45				
	区	分	入	所 者	数	入所申	込者数
市田	町名		男性	女性	計	1人室	2人室
大	津	귀		1	1	1	
東	近江	市			0		
湖	南	市			0		
栗	東	市市			0		
彦	根	市市			0		
草	津	市			0		
長	浜	市			0		
マ	キノ	町			0	2	
東湖栗彦草長マ今朽安高	津	町	3	13	16	2	
朽		木		1	1		
安	曇川	町			0	2	
高		島			0	1	
新	旭	町			0	2	
他	府	県			0	2	
<u>他</u> 合		計	3	15	18	12	0

項目	内容	算 出 方 法	金額
生活費	毎日3回の食事代 共用費用	一律金額	44,500円 (R1.10から800円増)
事務費	人件費 保健衛生費等	本人の前年の収入に応じて算定	10,000円 ~ 84,900円
管理費	家賃相当額 [管理費基礎額 400万円]	分割納入方式 管理費基礎額+利息を240ヶ月で 割った金額を月々納入 (平成30年4月1日から分割納入方式のみ)	1 人部屋の場合 毎月 16,910円 ~17,430円

1ヶ月の利用料金

生活費

- 事務費

管理費

共用部分の暖房費 1,960円(R1.10から30円増) その他 の費用

冬期:11月から3月まで

上下水道代

※ 電気、電話料金は入所者自身での個別契約となり実費負担

【定員】入所60名・生活介護60名・短期入所4名・日中一時支援3名【職員】常勤40名・非常勤33名(常勤換算56.5名)

取組事項 実施 状 況 ・施設入所支援―稼働率 91.1%(-3P)・退所者 8 名(死亡 7名)(入院、外泊延べ 741日) 入所 8名 令和 2年3月31日現在 57名 働率 80.4%(+8.9P) ・施設内研修-①虐待事例研修 生活支援員 事故防止にかかる研修 生活支援員 事故防止にかかる研修 生活支援員 りスクマネジメント、感染対策 中活動、情報ネットワーク) 会での意見交換、サビ管連絡会・資格取得助成(初任者研修 1名 ※ 資格取得助成(初任者研修 1名 ※) 第4 地域貢献等の促進 ・ 地域と合同の防災訓練の実施 りフリースペースの活用の人材派遣 り 地域と合同の防災訓練の実施 りフリースペースの活用の人材派遣 客数。現在、市が主体となる高 皆無のため各方面から評価を修 ・ 年間防災訓練計画に基づき避難訓練4回(内1回 消防設備法定点検2回、防災請	舌向上、改善活動、 策、自立支援、研修、日
1. 介護給付費 名(死亡7名)(入院、外泊延べ741日) 入所8名 令和2年3月31日現在 57名 働率80.4%(+8.9P) 1. 介護給付費 名(死亡7名)(入院、外泊延べ741日) 大所8名 令和2年3月31日現在 57名 働率80.4%(+8.9P) 1. 介護給付費 名(死亡7名)(入院、外泊延べ741日) 大所8名 令和2年3月31日現在 57名 働率80.4%(+8.9P) 2. サービスの質 事故防止にかかる研修 生活支援員 フスクマネジメント、感染対策 中活動、情報ネットワーク) 会での意見交換、サビ管連絡会 滋賀県相互評価委員会 資格取得助成(初任者研修1名 3. 要望等解決 ・要望(苦情)等受付件数2件、職員の対応 (入所家族、平和堂ホームサル・市が崎区民と(第65回ぶれあい交流会)の開催 市、高島市教育委員会主催 月に一度の開催で、1 公演に1 名 大田	舌向上、改善活動、 策、自立支援、研修、日
事故防止にかかる研修 生活支援員	策、自立支援、研修、日
3. 要望等解決 ・要望(苦情)等受付件数2件、職員の対応 (入所家族、平和堂ホームサボー ・ 市が崎区民と(第65回ふれあい交流会)の開催 市、高島市教育委員会主催)』 4. 地域貢献等の促進 ・ 地域と合同の防災訓練の実施 ・フリースペースの活用の人材派遣 客数。現在、市が主体となる高・『昭和のうたピアノ弾き語りコンサート(高島 皆無のため各方面から評価を得	s、施設間職員交換研修、
・市が崎区民と(第65 回ぶれあい交流会)の開催 市、高島市教育委員会主催)』 4. 地域貢献等の促進 ・地域と合同の防災訓練の実施 月に一度の開催で、1 公演にている。 ・フリースペースの活用の人材派遣 客数。現在、市が主体となる高いでは、1 ではいるでは、1 ではいる。 といったの名方面から評価を得	
№ - 年間防災訓練計画に基づき避難訓練4同(内1同 - 当防設備決定占権2同 防災護	へ音楽療法士を派遣。 つき 70~100 名の観 論齢者向けの娯楽演芸が 得る。
5. 防災訓練 は消防署立会、内2回夜間想定)、消火訓練3回 同で非常食での炊き出訓練) 音 (消火器、屋内外消火栓、)、通報訓練1回、 名の実施。救急救命講習の実施	普通救命講習 3 回 11
・感染対策として職員・業者への手指消毒の徹底 定、体調管理 ・感染症の拡大に伴い、次亜塩素酸ナトリウムによ ・不要不急の外出制限 面会制限 る消毒の徹底と手洗い、加湿器の稼働、換気、マ ・感染症マニュアルの見直し スク着用義務付け、職員の出退勤時の体温測 ・3S 活動による施設内の環境整備	滿に努めた。(継続中)
・在宅生活の継続、介護者の負担軽減等の支援とし、・作業療法士による高島市内の支 て在宅生活支援登録者(重複)54 名(生活介護 ビリ相談(15 回 5 名)に応じた 16名、日中一時4名、短期入所22名、重症心 里、さわの風へ派遣一車椅子適 身12名(内44名高島市内在住) 動機能評価、相談を延べ1,85	た。清風荘、やまゆりの 適合ポジショニング、運
8. 人材育成 ・メンター研修の参加(法人研修委員会)2名 管理者による対象職員面接の実	実施
9.人権活動の推進・職員全体会議と新任・現任研修会、月例文書に より啓発を行った。随時、外部	
	70/11/21/21/21
 ・実習の受入れ ・実習受け入れなし ・建物付属設備更新 Wi-Fi環境設定(1,220千円) ・修繕改修(2F浴室ケムコリフト(350千円)、居 策補助 第 元 でがいず が 1 台 229 千円、事 円) ・器具及び備品(ベッド固定リフト 3 台 1,233 千 円 円) ・器具及び備品(ベッド固定リフト 3 台 1,233 千 円 円) ・器具及び備品(ベッド固定リフト 3 台 1,233 千 円 円) 	事務所複合機(1,645 千 ・·2F テレビ、冷蔵庫、 常灯等)、消防設備点検
・利用者支援の充実に向け「1 階・2階・3階」のフロア完結型の支援体制の実施、入所者と分けて1F 朝日ユニット(通所事業)としての支援体制 用練習相談や生活・心身等の関を実施して4年目になるが、支援員の不足から夜間帯や入浴介助等各フロアでの完結が出来なかった。 ・個別支援計画については、実現可能な内容を中心に策定し、身体拘束についても同時に同意を得る形に変更した(ケアプランとして策定)。・利用者自治会への事務局として支援(役員会、関係向)・成年後見制度一利用10名(家方さがお、司法書土)	スコールや PC・IN の利 関わり (施設入所利用者 1名) 延べ 2,082 名実 3台・電動1台)作成中 レンの実施-5名延64
* 可能な限り入院に至らないように日々の健康管理 ザラ防接種 56名、肺炎球菌の と異常の早期発見をおこなう。 ・定期健康診断(6月、12月)実施延べ110人 。 入院者延べ21名(648日) ・インフルエン	
ビス ・嗜好調査を年2回実施、自治会と給食会議により ・喫茶ブルーレイク(6回延べ2: 意見聴取と改善提案等を協議 ・利用者からの意 回 480 人) の実施とリクエス 見要望についても改善を実施 ・行事食 12回 の嗜好に繋げた。お菓子作りを 179 名)	ストメニューを聞き個人を毎月実施(12回延べ
・家族の集いに併せて職員全体会を実施 会(礼拝)、新年食事会、節分4. 主な行事実施状況 ・自治会との連携により行事の企画、実施 ・広報誌ほのぼのタイムズ年3回 花見食事会、花見ドライブ、紅葉ドライブ、クリスマス 行・日中余暇活動の実施	回、朝日通信 3 回の発
・日赤奉仕団(車いす清掃)・今津教会(講話会・ク ・日中活動―麻雀、将棋、オセロリスマス会・礼拝)・車椅子ダンス12回・ケッざぐるま(喫茶ブルーレイク)・衣類の繕い、食事関係の支援等・仏教婦人会(車いす清掃)	

障害者支援施設 清湖園の現況

開設年月日 昭和57年4月1日

認可定員:生活介護事業 60名 施設入所支援 60名 (現員 57名)

令和2年3月31日現在

ショートステイ: 4名 日中一時支援: 3名以内

1 職員の配置状況

· 490 54 45 HC IE	常勤換算	基 準	常勤	非常勤
施設長	1	1	1	
サーピス管理責任者	1.5	1	1.5	
医師	0.1	1名以上		1
事務員	1		1	
看護師	6.1	1名以上	3	5
生活支援員	40.07	(1.7:1以上)	28.5	24
作業療法士	1	1	1	
栄養士	1	1	1	
調理師	4		3	
歯科衛生士	0.1			1
その他(管理宿直)				
臨床心理士	0.1			1
音楽療法士	0.53			1
合 計	56.5		40	33

③ 病症類別利用者 障害名

④ 障害程度別利用者

障害名	男	女
脳性マヒ	14	7
頚椎損傷	2	0
脊椎マヒ	1	0
脳血管障害後遺症	8	0
頭部外傷後遺症	3	3
脳神経疾患	1	0
リウマチ	0	1
ALS	0	0
その他の疾病	9	8
計	38	19

⑤日常生活介護状況

介護内容	区分	男	女
食事	自立	17	7
	一部介助	6	7
	全面介助	14	6
起座	自立	8	4
	一部介助	8	4
	全面介助	21	12
立ち上がり	自立	6	4
	一部介助	3	4
	全面介助	28	12
排泄	自立	6	4
	一部介助	8	1
	全面介助	23	15
	* おしめ使用者	11	15
着脱衣	自立	6	1
	一部介助	6	9
	全面介助	25	10
入浴	自立	3	0
	一部介助	8	7
	全面介助	26	13
トランスファ	自立	7	4
	一部介助	5	3
	全面介助	25	13
車椅子使用	自立	20	6
	一部介助	3	6
	全面介助	13	7
	*補助具等で歩行	2	1
	* 普通型車椅子	27	16
	* 電動車椅子	8	2
寝返り	自立	16	8
	一部介助	4	1
	全面介助	17	10
	•		

※経管栄養	5名
※カテーテル	4名
※気管切開	3名
※人工肛門	1名

2 利用者の状況 ① 市町村別利用者

O 10-1112313713713 E		
市町村名	男	女
高島市	7	5
長浜市	8	1
大津市	7	5
東近江市	2	1
野洲市	2	1
近江八幡市	2	1
湖南市	1	0
彦根市	0	2
守山市	1	1
草津市	0	1
愛荘町	0	0
栗東市	1	1
京都市	3	0
宇治市	1	0
住吉区	1	0
山鹿市	0	1
若狭町	1	0
計	37	20

② 受給者証区分別利用者 (生活介護事業)

(施設入所支援) 支援区分 男

区分1

区分2

区分3

区分4

区分5

区分6

計

二、土油川	\工们儿咬于不/						
支援区分	男	女					
区分1	0	0					
区分2	0	0					
区分3	3	0					
区分4	2	2					
区分5	6	2					
区分6	32	24					
計	43	28					

1

5

29

37

女

0

0

0

2

2

16

20

身体障害者手帳	1級	30	12
(再掲)	2級	8	8
	3級	1	2
	肢体不自由	34	16
療育手帳	Α	4	5
	В	2	2
精神障害者保健福	祉手帳	0	2
重度障害者支援加	6	6	
重度障害者支援加	3	3	

区分

男

女

⑤ 年齡別利用者

	男	女			
~19歳	0	1			
20~29歳	1	0			
30~39歳	0	1			
40~49歳	4	2			
50~59歳	9	3			
60~64歳	9	6			
65~74歳	8	4			
75歳~	6	3			

※施設平均年齡 60.9歳※男性平均年齡 61.9歳※女性平均年齡 59.2歳最年少 19歳

最高齢 87歳

※施設の高齢化率

か 心 改 の 同 断 心 午	
年齢区分	率
50歳未満	16%
50歳以上	84%
60歳以上	63%
65歳以上	37%
75歳以上(後期高齢者)	16%

2019年度 清湖園 稼働率

令和2年3月31日

施設	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	備考
定員最大利用者数	1,800	1,860	1,800	1,860	1,860	1,800	1,860	1,800	1,860	1,860	1,740	1,860	21,960	定員60名
利用実績者数	1,636	1,653	1,688	1,675	1,676	1,591	1,690	1,644	1,715	1,699	1,625	1,713	20,005	
2019年度稼働率(%)	90.9	88.9	93.8	90.1	90.1	88.4	90.9	91.3	92.2	91.3	93.4	92.1	91.1	
平成30年度稼働率(%)	95.8	96.9	97.7	97.9	94.8	93.5	94.0	94.6	92.8	90.9	88.9	91.5	94.1	
平成29年度稼働率(%)	95.8	94.8	97.9	99.2	97.6	97.4	97.7	95.7	93.4	94.0	97.7	97.6	96.6	
短期入所	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	———— 合計	
定員最大利用者数	120	124	120	124	124	120	124	120	124	124	116	124	1,464	
延べ利用者数	89	85	98	90	108	90	110	89	95	106	113	103	1,176	,, ,
2019年度稼働率(%)	74.2	68.5	81.7	72.6	87.1	75.0	88.7	74.2	76.6	85.5	97.4	83.1	80.4	
平成30年度稼働率(%)	76.7	84.7	86.7	82.3	71.0	75.8	83.9	72.5	63.7	46.8	59.8	54.0	71.5	
平成29年度稼働率(%)	80.8	75.8	65.0	62.9	62.1	70.0	72.6	80.8	79.8	59.7	45.5	73.4	82.6	
		_ 1			T			_	_ 1			T		
生活介護	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	備考
定員最大利用者数	1,560	1,620	1,560	1,620	1,620	1,560	1,620	1,590	1,620	1,650	1,510	1,640	19,170	定員60名
延べ利用者数	1,179	1,198	1,169	1,214	1,225	1,130	1,210	1,199	1,260	1,265	1,175	1,270	14,494	(平成27年4月、定員70名→60名に変更)
上段:入所者 中段:通所者	177	171	166	180	176	182	183	158	157	163	168	184	2065	
下段∶合計	1,356	1,369	1,335	1,394	1,401	1,312	1,393	1,357	1,417	1,428	1,343	1,454	16,559	
2019年度稼働率(%)	86.9	84.5	85.6	86.0	86.5	84.1	86.0	85.3	87.5	86.5	88.9	88.7	86.4	
平成30年度稼働率(%)	97.4	93.6	93.3	97.6	91.4	92.5	91.4	91.0	92.2	87.6	87.7	93.7	92.5	
平成29年度稼働率(%)	97.2	93.9	96.3	98.7	94.4	93.5	97.0	91.7	93.7	90.6	93.2	94.6	96.5	入所者は月日数-8日算定可

【職員】常勤 27名・非常勤 7名・ 登録ヘルパー12名 (常勤換算 31.9名)

取組事項	実	施 状 況
総括	・就労移行支援において平成30年度の介護給付費に9,411,428円	普通救命講習受講、地域で行われた防災学習会にも参加した。
	の過誤請求が発生した。県や市との確認と協議により9月に全額	・虐待防止に関する研修会や委員会を施設全体として継続的に開催し、
	返還を行った。12月からは、就労移行支援と就労継続支援B型を	再発防止に取り組んだ。
	 多機能化することにより、市内で唯一の就労移行支援事業所の存続	・毎月開催する月例会を、理事長をはじめとする各施設長にも出席いた
	を図った。事業の連携と組織の見直しを行い、事業所名称を「わーく	だく機会を持ったり、職員の研修報告や施設内研修に利用するなど
	る夢」とし定員の変更、更には3月末には事業所の移転を行い新年度	全員参加型の月例会を目指した。
	からの体制を整えた。	・プロジェクトチームを立ち上げ各職種で事例検討を重ねてきた。結果、
	・要望等の受け付けが7件あった。利用者や家族からのご意見を	高島市においても、一家丸ごと支援の必要性つまり複数の分野のサービス
	積極的に吸い上げ改善に向けて取り組んだ。	の連携が必要であると確認し、ほろん事業の更なる連携が次年度の
空がハ 老サム	・年間防災訓練計画に基づき、初期消火訓練、避難訓練(3回)実施。	取り組み課題となる。
障がい者社会	・今年度も必要に応じて、専門職(作業療法士・音楽療法士・手話	・スポーツ・芸術活動では、諸行事を開催し、障がい当事者の社会参加
参加促進事業		を促し、当事者団体とボランティアとの交流を行った。
	・パソコンエンジニアを中心に月2回 旧ほろんボランティアルーム	・視覚障がい者の情報提供のため「広報たかしま」「議会だより」の
	を利用し、土曜パソコン教室を開催した。また、市内の福祉施設	点字・声の広報を定期的に発行した。
	(藤美寮・アンフィニ) や公民館でパソコン教室を開催した。	・音訳ボランティア養成講座については、視覚障害当事者が講師となり
	・リサイクル事業では、関係機関(相談支援センター、社協、市役所)	実際に即した講座開催を行った。今年度は新しい受講生を募集せず、
	と連携し、福祉用具・福祉機器を不要な人に譲って頂き必要な人に	現サークル員の強化講座として20名が受講した。
	斡旋した。	・手話奉仕員養成事業(入門編)では、正規のカリキュラムを基に開催し
		21名が受講し、20名の方に修了証を授与した。
働き・暮らし	・今年度は403名の登録者であった。〔内訳:身体62名	年度末の市役所の求人には多くの方が見学に入られ、33名の方の調整を
応援センター	知的169名・精神126名・その他46名〕対象の方に対しての	行った。障害者専用求人の少ない圏域であるために、今後も情報の発信を
就業・生活	相談は総数5,707件となった。支援件数全体でみると、	幅広く行っていく。
支援センター	昨年の2割減となっている。	・転居などで圏域を変わられる方が例年に比べ多く、他の圏域の応援セン
	・就労移行・B型との連携で実習、就労となるケースもあり、	ターなどとの連携が多く見られた(5件)。
	年間の就職者数は41人、実習66件の実績を収めた。	・つながり応援センターよろずとの連携を密にし、共同での支援を実施。
こころいちばん	契約者数120名(計画65件、モニタリング287件、加算398件)	・相談支援研修会をはじめ、各研修会に積極的に参加し、アセスメント
計画相談	40件/月を目標に取り組み、加算件数の増加に伴い増収となった。	力などのスキルアップをはかった。
支援センター	・相談内容が一般相談など他種多様になり、家族、関係機関との	・今後も、居宅介護支援専門員と相談支援専門員が互いに自己研鑽し、
又抜ビノグー		
	連携を密に取りながら支援するケースが継続しており、1人の利用者	利用者に寄り添った相談援助ができるよう連携をとって支援の継続を
	にかかる時間が多く、個々の計画書やモニタリングの充実にまで	行っていく。
	は至らなかった。	
こころいちばん	. • 年度当初利用者数59名(要介護41名、要支援18名)で常勤	・訪問介護では早期に訪問調整が必要な利用者にこころいちばんホーム
居宅介護	換算2,2名でスタートし、一人歩きでの警察保護相談など一人暮	ヘルプとの情報共有と協力依頼を行い迅速に対応し本人や家族の安心を
支援センター	らし高齢者の支援の限界、要支援高齢者の受診介助対応が自費負担	得ることができた。
	での対応になる等支援の限界もあった。	・市内ケアマネ不足に関して高島市包括支援課主催で会議が持たれ現状
	・夕方の訪問や面談時には、出勤時間を遅らせるなど柔軟に対応し	の共有と新規依頼をどのようにサポートしていくか、入院患者の介護
	居残り残業減少に取り組んだ。	認定に関しても市からソーシャルワーカーへの依頼等で早急に介護認定
	・ほろん内の計画相談支援専門員との連携で障がい制度から	やケアマネが必要かを精査できるように働きかけを実施。
	介護保険に移行された利用者の入所申し込みや各種手続きなど	当事業所も市内事業所と協力しながら相談業務を行っていく。
	相談しながら対応することができた。	
こころいちばん	・5月より特定事業所加算を取得し、算定基準である会議の開催や	・質の良いサービスを提供し利用者の満足度を高めるため、目標管理活動
ホームヘルプ	研修会の開催(参加)を積極的に行った。研修には個々のヘルパー	として利用者へのアンケートの実施を年2回行い評価し、訪問時のマナー
サービス	が目標を立て、達成のための研修会に参加できる体制づくりを行	の改善に取り組んだ。
	った。会議については数回に分けることで、全員が会議に出席で	・ 朽木地域担当のサービス提供責任者配置と常勤職員を1名増員し、
	きるよう工夫をし、積極的な意見交換とサービスの統一を図った。	サービスの安定と針畑地域への訪問を充実させた。
	・虐待防止への取り組み結果について、9月に市から「達成」の	・登録ヘルパーの高齢化により、遠方への支援や早朝・夜間の訪問が
	評価が得られた。今回の事象が風化されないよう、虐待防止マニュ	厳しくなってきており、担い手の確保が課題となってきている。
	アルの読み合わせや研修を随時行い虐待防止の啓発に取り組んだ。	「+++>+ 1
つーくる夢	令和元年12月より湖西夢工房(B型)・湖西ゆめ企画(移行・定着)を	【就労移行支援】
• 就労移行支援	それぞれ単独の事業所ではなく、多機能型わーくる夢として、B型・移行	新規の利用者の受け入れが少なく、年間を通しての平均利用者数/日は6.6人
• 就労継続支援	定着での協同や働き・暮らし応援センターとも連携しながら、工賃の向	となった。転出の予定があり、それまでの数か月の訓練といった利用者の受け
B型	上に向けた支援や、より一層の企業就労に向けた支援をすすめることと	入れや対応に苦慮する方への支援も実施した。2年間の期間を経て、B型の利用
• 就労定着支援	なった。	に変わられる方もあったが、企業就労につながった方も2名おられた。
	【就労継続支援B型】	【就労定着支援】
	新規利用者2名、退所者3名の入れ替わりがあったが、平均利用者数は	今年度は新規の利用者が1名おられた。昨年度から引き続き利用をされている方
	19.1人で安定した運営ができた。今年度は土曜日の開所を7日間設け、	についても、支援を実施する中で就労を継続されていた。本人の『働き』を考え
	利用者の楽しみとしてのレクリエーションを計画したこともあり、利用	ての企業とのやり取りや、人間関係での困り感への対応等、作業スキルの課題以
	者総数は前年度を416人上回る結果となった。月額平均工賃は、	外への対応も多く見られた。

2019 年度 ゆたか会事業報告 施設名:わーくる夢

事業名: 就労継続支援 B型(定員32名)※11月までは20名

年間開所日:255日 利用者総数:4864人 年間利用率:85.2% 1日平均:19.1人

【利用者の状況】

障害種別				
身体	8人			
知的	12人			
精神	2人			
発達	0人			
その他	0人			

年代別				
10代	1人			
20代	3人			
30代	0人			
40代	7人			
50代	6人			
60代	3人			
70代	2人			

男女比率				
男性	9人			
女性	13人			

地域別					
マキノ	1人				
今津	6人				
新旭	6人				
安曇川	4人				
朽木	2人				
高島	2人				
市外	1人				

契約年数					
1 年未満	2人				
2 年未満	3人				
3 年未満	0人				
3 年以上	17人				

【利用者工賃】

種別	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
売 上	354,318	266,213	432,213	497,776	690,023	766,663	632,970	562,143	686,440	535,368	420,878	482,874	6,327,879
経 費	104,463	41,049	35,324	56,230	232,302	285,896	158,262	156,409	204,135	100,806	47,777	121,614	1,544,267
工賃	249,855	225,164	396,889	441,546	457,721	480,767	474,708	405,734	482,305	434,562	373,101	361,260	4,783,612
平均工賃	10,863	9,790	17,256	20,070	21,796	22,894	22,605	19,321	22,967	20,693	17,767	16,421	18,399

事業名: 就労移行支援(定員8名)※11月までは20名

【利用者の状況】

障害種別					
身体	1人				
知的	2人				
精神	4人				
発達	1人				
その他	0人				

	年代別							
10代	0人							
20代	3人							
30代	1人							
40代	3人							
50代	1人							
60代	0人							

男女比率							
男性	7人						
女性	1人						

地域別					
マキノ	0人				
今津	2人				
新旭	3人				
安曇川	1人				
朽木	〇人				
高島	2人				
市外	0人				

種別	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
開所日	23	22	23	23	23	23	23	23	23	23	23	23	319
契約利用者	8	8	8	9	10	9	10	9	10	9	9	8	116
延利用者数	134	147	149	151	143	158	156	152	151	149	146	150	1961
平均(人/日)	5.9	6.7	6.5	6.6	6.3	6.9	6.8	6.7	6.6	6.5	6.4	6.6	6.55
利用率(%)	29.5	33.5	32.5	33.0	31.5	34.5	34.0	33.5	82.5	81.3	80.0	82.5	49

事業名:就労定着支援 【利用契約者】6名

障害種別	年代	性別	地域	業種
知的障害	20代	男性	新旭	製造業
知的障害	30代	男性	今津	製造業
知的障害	30代	女性	新旭	製造業
知的障害	40代	男性	新旭	製造業
精神障害	40代	男性	安曇川	学校業務嘱託員
知的障害	50代	男性	今津	古紙リサイクル業

(平成31年4月1日~令和2年3月31日)

[地域生活支援事業]

(1) 生活訓練事業

作業療法・音楽療法は1人単位で契約

11来原丛。日来原丛は1八年四人关刊					
コミュニケーションに関する訓練は1回単位で	契約				
1)作業療法士	訓練回数	参加人数	40	4人	
2) 音楽療法士	訓練回数	参加人数	240	24人	
3)ピアカウンセラー	訓練回数	参加人数	200	20人	
4) 支援員(手話通訳者)	訓練回数	支援者数	2510	23人	
5)指導員(事業計画)	訓練回数	参加人数	2510	随時	
6)パソコンエンジニア	訓練回数	支援者数	220	6人	
(2) 福祉機器リサイクル事業	リサイク	フル実績		4件	
(3) 点字・声の広報等発行事業					
1) 点字広報(点字•拡大印刷等)	広報たかしる	₹ (5~4£]号)	120	
	議会だより	会だより (69,70,71,72号)			
2)声の広報	広報たかしま	₹ (5~4£]号)	120	
	議会だより	(69,70,71	,72号)	40	
[スポーツ、芸術活動等振興事業]	1		1		
1) スポーツ・レクリエーション教室開催等事業	<u> </u>		ı		
・フラワーアレンジメント教室 (5/18)	訓練日数	参加人数	1日	5人	
• グ ラウンド ゴルフ春季大会(6/11)	開催日数	参加人数	1日	10人	
・滋賀県ろうあ者大会(6/23)	開催日数	参加人数	1日	人8	
・お洒落・いやし教室	開催日数	参加人数	1日	7人	
・水泳教室(7・8・9月)	開催日数	参加人数	6日	延べ17人	
・第19回手話フェスティバル(9/15)	開催日数	参加人数	1日	10人	
・グラウンドゴルフ秋季大会(10/22)	開催日数	参加人数	1日	10人	
・レクリェーション祭り(12/14)	開催日数	参加人数	1日	12人	

• プリザーブドフラワー教室(10/19)

• パソコン教室(10月~12月)

• 運動会(視覚障害者協会)

ピラティス(1/20)

・雛祭りコンサート(2/29) 中止

開催日数 参加人数 1日 10人 開催日数 参加人数 1日 8人 開催日数 参加人数 1日 7人 開催日数 参加人数 1日 10人 開催日数 参加人数 1日 10人 開催日数 参加人数 1日 12人 開催日数 参加人数 6日 延べ25人 開催日数 参加人数 1日 13人 開催日数 参加人数 1日 6人(約40人) 開催日数 参加人数 1日 4人 開催日数 参加人数 1日 4人	小小木口女	多加八数	1 0	57
開催日数 参加人数 1日 7人 開催日数 参加人数 6日 延べ17人 開催日数 参加人数 1日 10人 開催日数 参加人数 1日 10人 開催日数 参加人数 1日 12人 開催日数 参加人数 6日 延べ25人 開催日数 参加人数 1日 13人 開催日数 参加人数 1日 6人(約40人) 開催日数 参加人数 1日 4人	開催日数	参加人数	1⊟	10人
開催日数 参加人数 6日 延べ17人 開催日数 参加人数 1日 10人 開催日数 参加人数 1日 10人 開催日数 参加人数 1日 12人 開催日数 参加人数 6日 延べ25人 開催日数 参加人数 1日 13人 開催日数 参加人数 1日 6人(約40人) 開催日数 参加人数 1日 4人	開催日数	参加人数	1日	8人
開催日数 参加人数 1日 10人 開催日数 参加人数 1日 10人 開催日数 参加人数 1日 12人 開催日数 参加人数 6日 延べ25人 開催日数 参加人数 1日 13人 開催日数 参加人数 1日 6人(約40人) 開催日数 参加人数 1日 4人	開催日数	参加人数	1日	7人
開催日数 参加人数 1日 10人 開催日数 参加人数 1日 12人 開催日数 参加人数 6日 延べ25人 開催日数 参加人数 1日 13人 開催日数 参加人数 1日 6人(約40人) 開催日数 参加人数 1日 4人	開催日数	参加人数	6⊟	延べ17人
開催日数 参加人数 1日 12人 開催日数 参加人数 6日 延べ25人 開催日数 参加人数 1日 13人 開催日数 参加人数 1日 6人(約40人) 開催日数 参加人数 1日 4人	開催日数	参加人数	1日	10人
開催日数 参加人数 6日 延べ25人 開催日数 参加人数 1日 13人 開催日数 参加人数 1日 6人(約40人) 開催日数 参加人数 1日 4人	開催日数	参加人数	1日	10人
開催日数 参加人数 1日 13人 開催日数 参加人数 1日 6人(約40人) 開催日数 参加人数 1日 4人	開催日数	参加人数	1日	12人
開催日数 参加人数 1日 6人(約40人) 開催日数 参加人数 1日 4人	開催日数	参加人数	6⊟	延べ25人
開催日数 参加人数 1日 4人	開催日数	参加人数	1日	13人
	開催日数	参加人数	1日	6人(約40人)
開催日数参加人数	開催日数	参加人数	1日	4人
	開催日数	参加人数		

2019年度事業報告

障害者就業・生活支援センター事業 働き・暮らし応援センター事業 雇用安定等事業

◆障害種別・就業状況別の支援対象障害者(登録者)数(人)

(平成31年4月~令和2年3月)

	身体障害	知的障害	精神障害	その他	合 計
企業•一般就労	33	103	57	25	218
求職中	23	57	61	21	162
その他	6	9	8	0	23
(うち期間の新規登録者)	(7)	(12)	(10)	(9)	(38)
合 計	62	169	126	46	403

◆就職及び離職、実習件数 (件)

	身体障害	知的障害	精神障害	その他	合 計
就 職	4	15	21	3	43
離職	0	15	14	6	35
実 習	10	28	27	4	69

※離職(契約期間満了の離職、転職による離職も含む)

※実習(2日以下、委託訓練含む)

【個別支援】

【個別支援】 支援項目	支援対象者障害種別				延べ回数	
【迴別又接】 又接項日	身体障害	知的障害	精神障害	その他	連べ回数 こうしょうしょう	
就職に向けた支援	223	661	680	186	1,750	
職場定着に向けた支援	97	1,217	957	116	2,387	
日常生活・地域生活に関する支援	16	601	221	44	882	
就業と生活の両方にわたる支援	31	361	248	48	688	
合計 (5707件)	367	2,840	2,106	394	5,707	

【個別支援】

【個別支援】 支援方法		支援対象を	当障害種別		延べ回数
【旧別又拨】 又拨月広	身体障害	知的障害	精神障害	その他	進い 回数
来所	37	400	363	60	860
電話(メール・Fax含む)	198	1,409	1,231	223	3,061
職場訪問(定着支援)	51	593	253	32	929
職場開拓(個別支援)	49	151	145	27	372
家庭訪問	7	13	12	11	43
他機関への訪問・調整(個別ケース会議含む)	25	274	102	41	442
合計	367	2,840	2,106	394	5,707

※電話に含まれるメールでのやり取りも多い

※他機関への訪問・調整については、関係機関(相談センター・ハローワーク・職業訓練センター他)や地域内施設等

こころいちばん計画相談支援センター 2019年度事業報告

計画作成(件数)

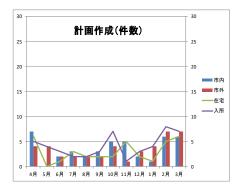
	++	+4	- 61	++	3 Er	
	市内	市外	計	在宅	入所	計
4月	7	4	11	6	5	11
5月	0	4	4	0	4	4
6月	2	2	4	1	3	4
7月	3	2	5	3	2	5
8月	2	2	4	2	2	4
9月	3	2	5	2	3	5
10月	5	4	9	2	7	9
11月	5	1	6	5	1	6
12月	2	3	5	2	3	5
1月	1	4	5	1	4	5
2月	6	7	13	5	8	13
3月	6	7	13	6	7	13
計		小計	84		小計	84

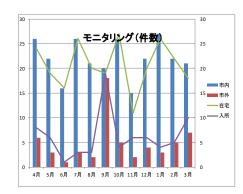
モニタリング(件数)

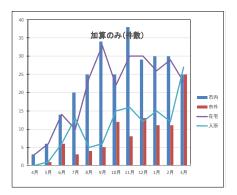
	市内	市外	計	在宅	入所	計
4月	26	6	32	24	8	32
5月	22	3	25	19	6	25
6月	16	1	17	16	1	17
7月	26	3	29	26	3	29
8月	21	2	23	20	3	23
9月	20	18	38	19	19	38
10月	26	5	31	27	4	31
11月	15	2	17	11	6	17
12月	22	4	26	20	6	26
1月	27	3	30	26	4	30
2月	22	5	27	22	5	27
3月	21	7	28	18	10	28
計		小計	323		小計	323

加算のみ(件数)

	市内	市外	計	在宅	入所	計
4月	3	0	3	3	0	3
5月	6	1	7	6	1	7
6月	14	6	20	14	6	20
7月	20	3	23	10	13	23
8月	25	4	29	24	5	29
9月	34	5	39	33	6	39
10月	25	12	37	22	15	37
11月	38	8	46	30	16	46
12月	29	13	42	30	12	42
1月	30	11	41	26	15	41
2月	30	11	41	29	12	41
3月	25	25	50	23	27	50
計		小計	378		小計	378







計画作成の報酬

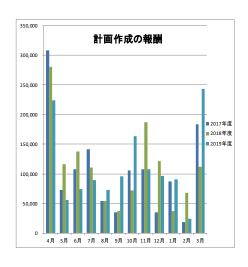
	2017年度	2018年度	2019年度
4月	308,351	280,041	223,808
5月	72,988	116,678	55,794
6月	108,250	137,944	74,392
7月	141,048	110,816	89,552
8月	54,125	54,390	73,181
9月	35,262	37,196	96,052
10月	105,786	72,163	163,293
11月	108,250	187,244	108,201
12月	35,262	121,270	96,249
1月	86,923	37,196	90,966
2月	18,863	67,817	24,397
3月	183,702	112,413	243,597
合計	1,258,810	1,335,168	1,339,482

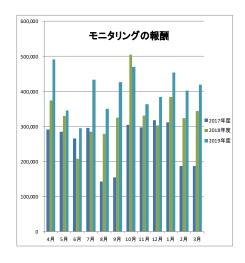
モニタリングの報酬

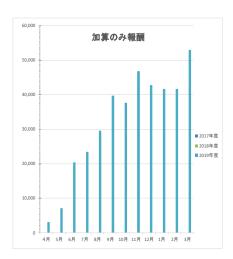
	2017年度	2018年度	2019年度
4月	290,772	374,822	491,888
5月	284,764	329,890	345,740
6月	265,401	208,132	294,256
7月	296,083	285,202	432,988
8月	143,300	279,044	350,006
9月	154,709	325,188	426,437
10月	304,107	504,674	470,240
11月	296,790	331,538	363,997
12月	317,442	303,100	384,293
1月	311,424	384,412	454,533
2月	187,397	323,346	401,853
3月	187,397	343,704	419,413
合計	3,039,586	3,993,052	4,835,644

加算のみ報酬

	2017年度	2018年度	2019年度
4月			3,054
5月			7,126
6月			20,360
7月			23,414
8月			29,522
9月			39,702
10月			37,666
11月			46,828
12月			42,756
1月			41,738
2月			41,738
3月			52,936
合計	0	0	386,840



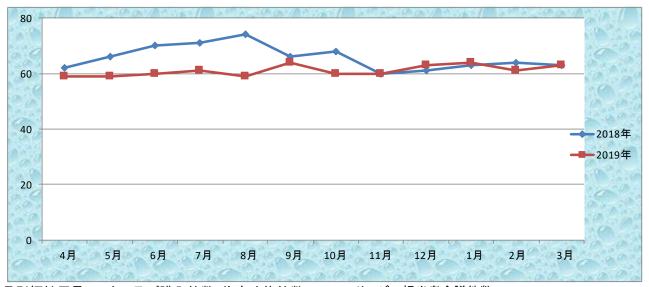




2019年度 こころいちばん居宅介護支援センター事業報告

要介護度別月別プラン作成人数

	メガ 皮皮がガガン 7~1下級人気													
要介護度	要支援 1	•2	要介	`護1	要介護	[2	要介	↑護3	要介	`護4	要介	`護5	合	計
月	2018年	2019年	2018年	2019年	2018年	2019年	2018年	2019年	2018年	2019年	2018年	2019年	2018年	2019年
4月	19	18	22	17	10	14	5	6	6	4	0	0	62	59
5月	21	18	22	18	12	13	5	7	6	4	0	0	66	59
6月	21	19	25	17	12	13	5	8	7	3	0	0	70	60
7月	20	20	26	16	12	14	6	8	7	3	0	0	71	61
8月	20	18	26	15	12	14	7	9	8	3	0	0	74	59
9月	18	18	25	15	11	15	5	9	7	5	0	2	66	64
10月	20	17	24	14	11	15	6	8	7	5	0	1	68	60
11月	17	17	20	16	13	15	4	8	6	4	0	0	60	60
12月	17	15	21	17	13	15	5	9	5	7	0	0	61	63
1月	17	16	23	18	12	14	5	8	6	8	0	0	63	64
2月	17	16	24	18	13	13	5	7	5	7	0	0	64	61
3月	17	17	20	18	16	12	5	9	5	7	0	0	63	63
合計	224	209	278	199	147	167	63	96	75	60	0	3	788	733



月別福祉用具レンタル及び購入件数・住宅改修件数

	4-11-5		,, , , ,				
	福祉用具	レンタル	福祉用具	購人	住宅改修		
	2018年	2019年	2018年	2019年	2018年	2019年	
4月	40	48	0	0	0	0	
5月	44	48	1	0	0	1	
6月	47	47	0	0	1	1	
7月	46	49	0	0	0	0	
8月	55	50	0	1	0	0	
9月	43	50	0	0	0	0	
10月	46	49	2	1	3	0	
11月	41	46	0	1	0	1	
12月	44	49	0	0	0	0	
1月	43	45	0	0	0	1	
2月	45	44	2	0	0	1	
3月	40	44	0	1	0	1	
合計	534	569	5	4	4	6	

サービス担当者会議件数その他の相談業務件数

しい心の自然未切けぬ									
	担当者会	議	その他相談業務						
	2018年	2019年	2018年	2019年					
4月	8	8	58	24					
5月	13	7	59	32					
6月	3	4	61	22					
7月	3	7	39	30					
8月	5	7	52	24					
9月	5	9	40	26					
10月	6	3	43	30					
11月	4	7	47	40					
12月	6	5	42	25					
1月	18	5	37	34					
2月	6	5	28	17					
3月	9	1	28	50					
合計	86	68	534	354					

(件)

要介護5の利用者はないが、毎月の相談内容は退院後の介護困難事情、一人あるきでの警察保護相談、認知症の中等度以上の一人暮らしでの服薬、家事支援の限界、金銭管理での権利擁護事業相談など 医療機関、行政相談を行いながら複雑な相談支援が増えている。また初回アセスメントからサービス導入後のモニタリング、再アセスメント、度重なるケアプラン変更に伴い事務量の増加、訪問回数も多い利用者で月5回程度で1度の相談時間も1時間以上であることから益々面談術の向上が求められている。下半期においても利用者の心身状況変化は継続し、看取り、ターミナル利用者の柔軟で早急なケアマネジメントや対応で事業所の協力を得られた。今後も退院まで時間のないケースや新規相談からサービス利用まで数日しか時間がないケースも予測されるため、利用者の状況に対する優先順位を適切に判断していく。令和2年2月新型コロナウィルス感染予防の対応として厚労省の通達で会議の自粛と文書での情報のやりとり、利用者支援に関して状況を鑑みた対応と、利用者の体調確認、事業所との連携をさらに取り組み、相談件数も大幅に急増した。今年度できなかった緊急の新規担当依頼や、利用者や家族に対しての分かりやすい介護保険の説明と対象者に合わせた説明方法の取得を身につけていくように努力する。

(件)

2019年度 こころいちばんホームヘルプサービス事業報告

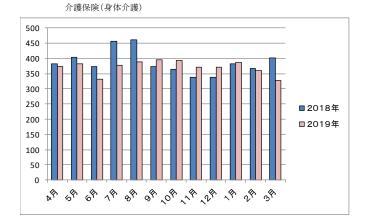
(単位・時間)

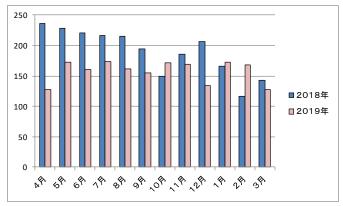
(畄位・時間)

(単位・时间)									
	2018年度介護保険実績 2019年度介護保					:険実績			
月	実人数	2018年 身体介護 利用時間	2018年 生活支援 利用時間	実人数	2019年 身体介護 利用時間	2019年 生活支援 利用時間			
4月	45	382	236	40	373	128			
5月	47	403	228	42	382	172			
6月	48	372	221	42	332	160			
7月	49	457	216	44	378	174			
8月	49	460	215	44	388	161			
9月	48	374	194	44	395	155			
10月	41	365	149	43	393	171			
11月	39	339	186	44	371	169			
12月	41	339	206	38	370	134			
1月	41	381	166	42	386	172			
2月	41	366	117	48	361	168			
3月	43	402	143	45	326	128			
合計	532	4640	2277	516	4455	1892			

									(甲位,	時間)
		201	8度支援費	実績		2019年度支援費実績				
月	実人数	2018年 身体介護 利用時間	2018年 生活支援 利用時間	2018年 同行援護 利用時間	2018年 移動支援 利用時間	実人数	2019年 身体介護 利用時間	2019年 生活支援 利用時間	2019年 同行援護 利用時間	2019年 移動支援 利用時間
4月	22	253	28	68	35	20	276	14	35	30
5月	21	252	20	37	38	26	306	22	34	65
6月	20	236	12	39	19	21	269	15	34	38
7月	19	255	20	40	18	26	290	17	59	79
8月	20	255	26	28	32	20	293	15	26	23
9月	23	241	33	75	31	21	280	16	57	47
10月	22	269	16	39	28	21	279	17	50	47
11月	23	266	13	89	37	25	267	23	82	63
12月	22	260	15	53	57	22	270	18	25	85
1月	21	247	10	36	26	18	267	22	27	20
2月	21	239	9	41	33	19	247	16	11	17
3月	18	265	12	56	48	21	284	20	28	20
合計	252	3038	214	601	402	260	3328	215	468	534

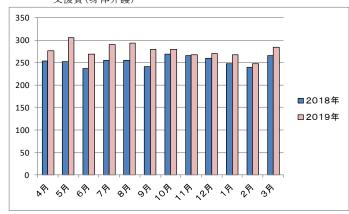




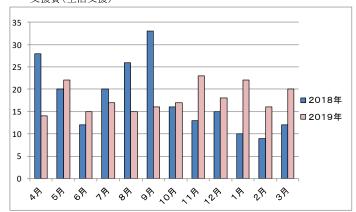


	介護	保険事業	支援費事業従事時間						
	2	2018年度	ŧ	2	2019年月	ŧ	2018年度	2019年度	
月	利用時間 合計	身体介護 割合	生活支援 割合	利用時間 合計	身体介護 割合	生活支援 割合	利用時間 合計	利用時間 合計	
4月	618	62%	38%	501	74%	26%	384	355	
5月	631	64%	36%	554	69%	31%	347	427	
6月	593	63%	37%	492	67%	33%	306	356	
7月	673	68%	32%	552	68%	32%	333	445	
8月	675	68%	32%	549	71%	29%	341	357	
9月	568	66%	34%	550	72%	28%	380	400	
10月	514	71%	29%	564	70%	30%	352	393	
11月	525	65%	35%	540	69%	31%	405	435	
12月	545	62%	38%	504	73%	27%	385	398	
1月	547	70%	30%	558	69%	31%	319	336	
2月	483	76%	24%	529	68%	32%	322	291	
3月	545	74%	26%	454	72%	28%	381	352	
合計	6917	67%	33%	6347	70%	30%	4255	4545	

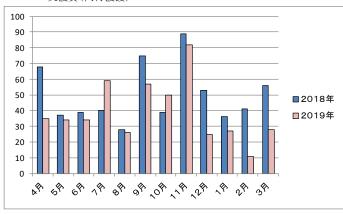
支援費(身体介護)



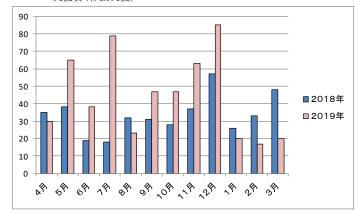
支援費(生活支援)



支援費(同行援護)



支援費(移動支援)

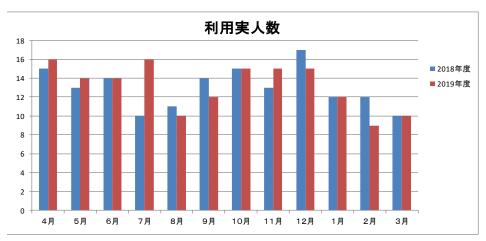


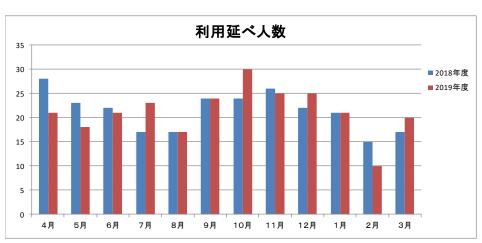
介護保険については、8月までは身体介護・生活援助共訪問件数が少ない状態が続いたが、市内各居宅介護事業所への空き状況報告により、徐々に新規利用者の増加がみられた。しかし、3月に入り入院や施設へ入所される方が増え、訪問件数が再度少なくなり、利用者数の安定には至らなかった。支援費については、全体的に増加傾向にあり、身体介護・生活支援とも安定してサービスが提供できている。

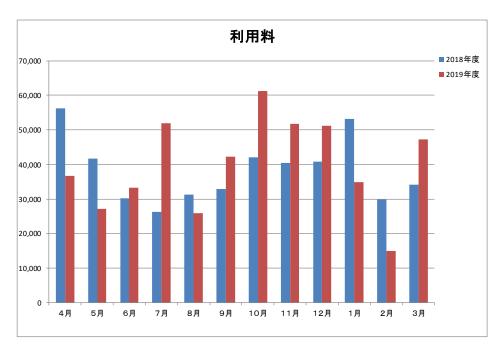
移動支援や同行援護の稼働が1月以降半数となった。冬季の外出が難しいことと、新型コロナウイルス感染予防の観点から、市外への外出について支援を縮小したことが原因である。利用者の楽しみである外出が、イベントの中止や外出自粛が大きく影響された結果となった。

2019年度	福祉有償運送	別紙(前年度	比較表)
--------	--------	--------	------

実	年 度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
人	2018年度	15	13	14	10	11	14	15	13	17	12	12	10	156
数	2019年度	16	14	14	16	10	12	15	15	15	12	9	10	158
延べ	年 度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
\ \ \ \	2018年度	28	23	22	17	17	24	24	26	22	21	15	17	256
数	2019年度	21	18	21	23	17	24	30	25	25	21	10	20	255
利	年 度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
用	2018年度	56,200	41,700	30,200	26,200	31,200	32,900	42,100	40,500	40,700	53,200	29,900	34,200	459,000
料	2019年度	36,600	27,200	33,300	51,900	25,800	42,200	61,200	51,800	51,200	34,800	14,900	47,200	478,100







利用者の延べ人数、実人数とも前年度とほぼ同数で経過。合計利用料が増えたことは、受診のための運送や、その他の利用目的など長距離の運送が増えたためと考えられる。

|利用者への気配りを忘れず、安心、安全を心掛けて運転に取り組んでいきます。